第6章

子どものICT利用

第1節 子どものICT端末所有状況
子どもが利用・所有している端末

第2節 子どものICTサービス利用状況
ICTサービス利用頻度、調べものでのICT利用頻度、
文字入力スキル

第3節 保護者の意識と親子間ルール
子どものICT利用への期待や不安、親子間ルール設定率、
親子の連絡頻度、フィルタリング利用率

第4節 学校との関わり
タブレット・パソコンの利用、貸与された端末の活用、
オンライン授業の感想

第1節

子どものICT端末所有状況

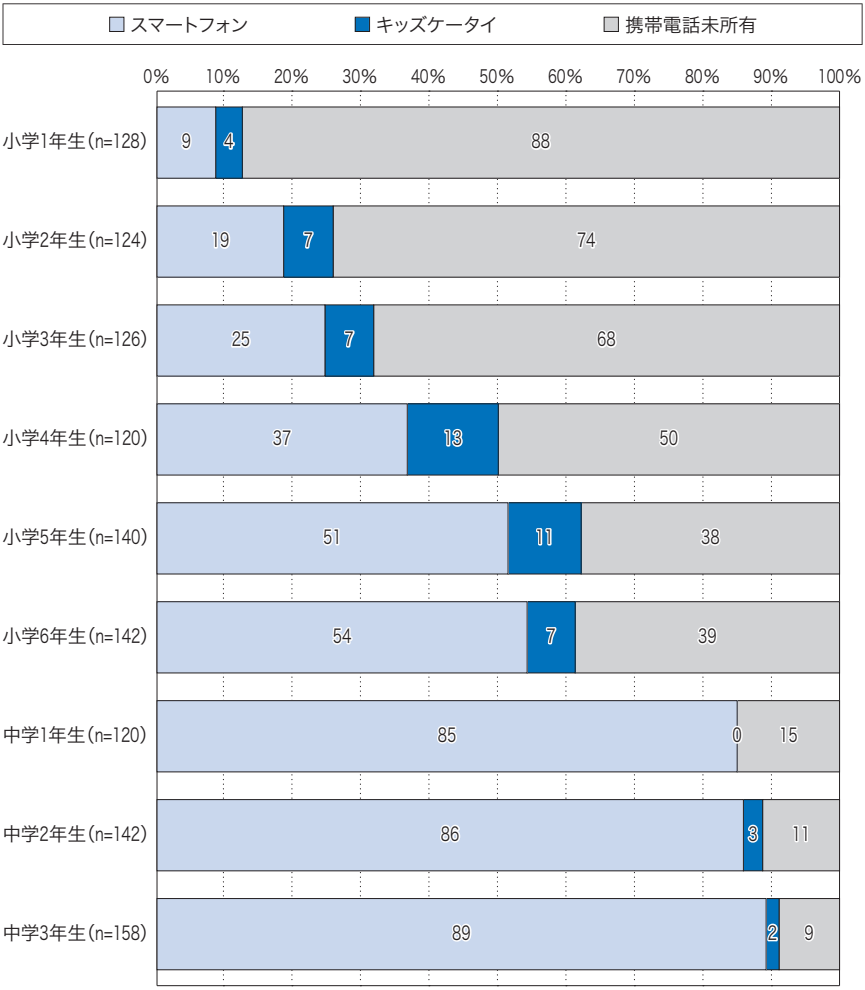
子どもが利用・所有している端末

ポイント

- 自分専用の端末としてのスマートフォン所有率は中学3年生で約9割（資料6-1）。
- 利用している端末は小学5年生まではタブレット利用が最も高く5～8割、小学6年生でスマートフォン利用がタブレット利用を抜き、中学生では9割を超える（資料6-2）。
- スマートフォンの所有開始年齢は全体平均で10.1歳に。女子の平均は9.9歳と、初めて10歳を下回る（資料6-5）。

資料6-1 自分専用の端末として子どもが所有している携帯電話の種類[学年別](単一回答)

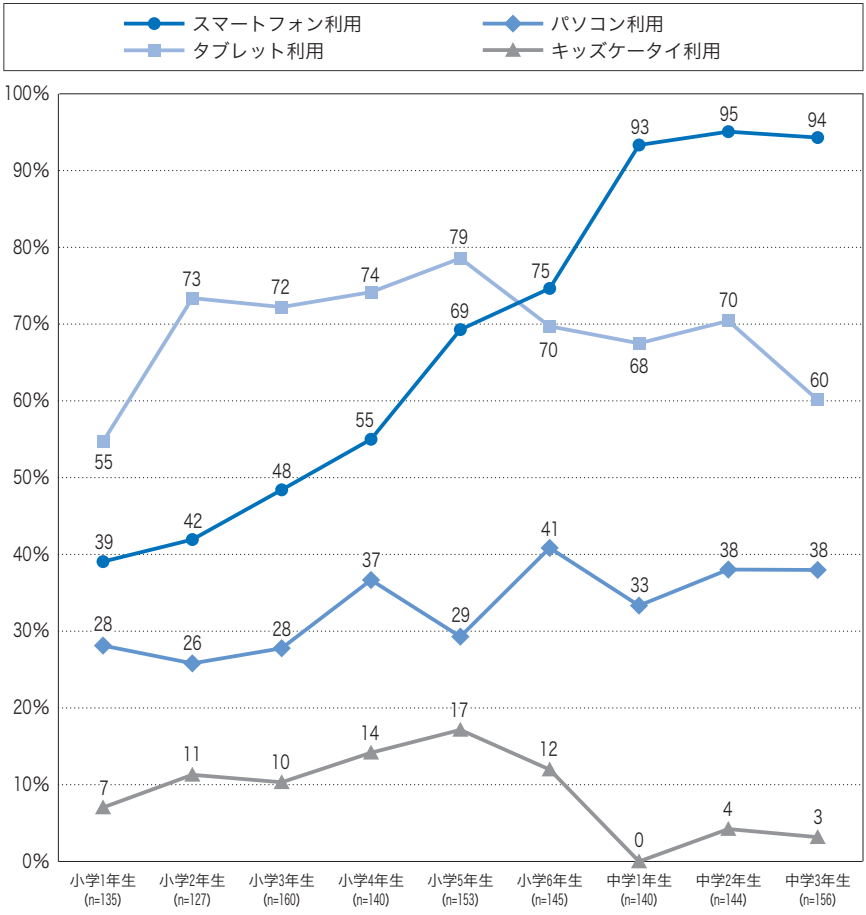
●スマートフォン所有率は小学5年生以上で5割を超える。
●中学生は、1年生から85%に達し、3年生では約9割となる。



注1：小中学生の保護者が回答。
注2：「スマートフォン」はキッズスマホ、iPhone、Androidスマートフォンを集計。
注3：「キッズケータイ」はフィーチャーフォンを含め集計。
注4：「スマートフォン」と「キッズケータイ」をどちらも所有している場合は、スマートフォン所有として集計。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-2 利用している端末の種類[学年別](複数回答)

- 小学5年生まではタブレット利用が最も高く、5〜8割。
- 小学6年生でスマートフォン利用がタブレット利用を抜き、中学生では9割を超える。
- パソコン利用は、小学生低学年は3割弱、小学生高学年と中学生は3〜4割。

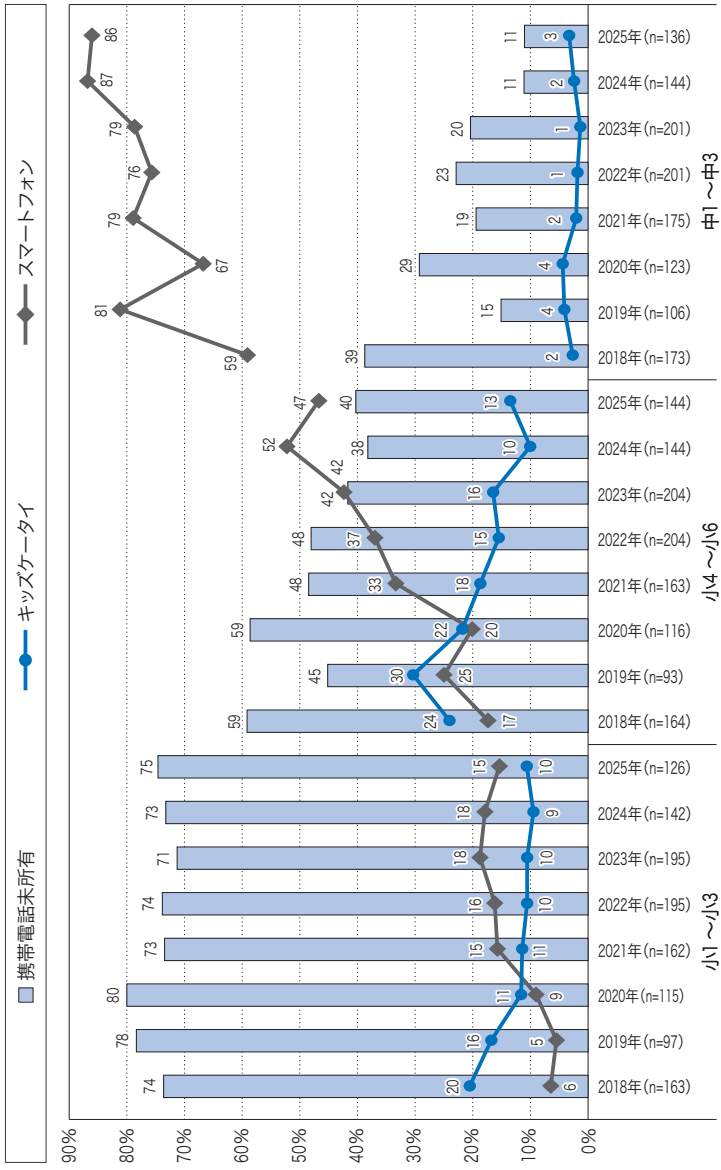


注1：小中学生の保護者が回答。
注2：「スマートフォン」はキッズスマホ、iPhone、Androidスマートフォンを集計。
注3：「キッズケータイ」はフィーチャーフォンを含め集計。
注4：「スマートフォン」と「キッズケータイ」をどちらも所有している場合は、スマートフォン所有として集計。
注5：「タブレット」「パソコン」は学校から貸与されたものを含んで集計。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-3 所有している携帯電話の種類の年次推移[学年別](複数回答)

●2021年から小学生のスマートフォン所有率がキッズケータイ所有率を上回る。

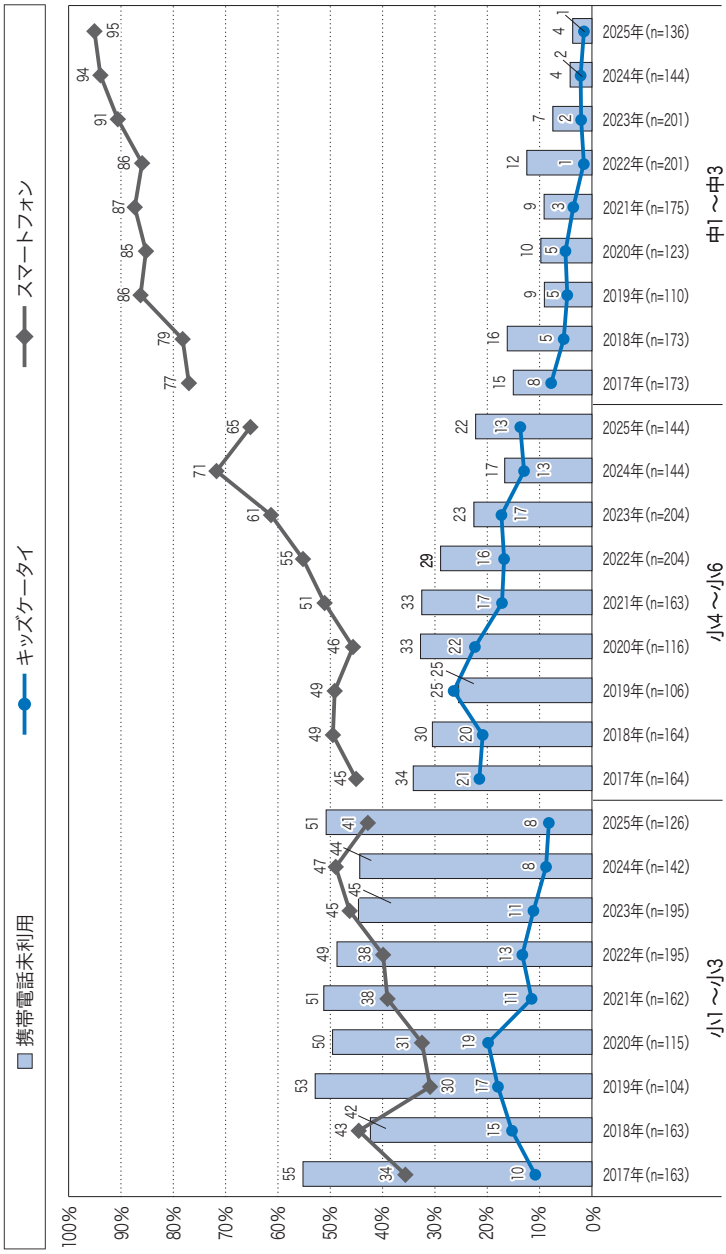
●中学生の所有率は2025年に86%。



注1：関東の小中学生の子どもを持つ保護者が回答。
注2：子どもが所有している機器の有無を保護者が回答。
注3：「キッズケータイ」はフィーチャーフォンを含め集計。
注4：「スマートフォン」と「キッズケータイ」をどちらも所有している場合は、スマートフォン所有として集計。
出典：子ども調査2018、子ども調査2019～2025(訪問留置)

資料6-4 利用している携帯電話の種類の年次推移[学年別](複数回答)

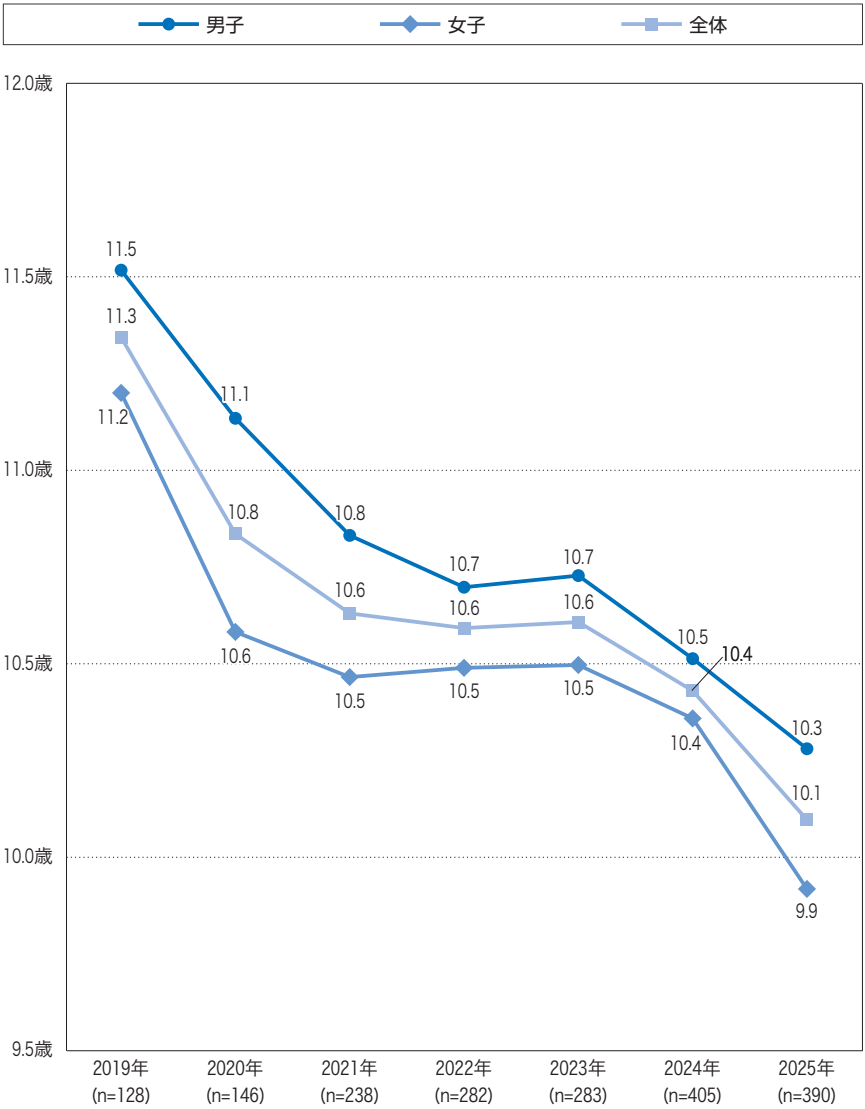
●スマートフォンの利用率は、中学生では95%。



注1：関東の小中学生の子どもを持つ保護者が回答。
注2：家族などで共有しているものを含め、子どもが利用している機器の有無を保護者が回答。
注3：「キッズケータイ」はフィーチャーフォンを含め集計。
注4：「スマートフォン」と「キッズケータイ」をどちらも利用している場合は、スマートフォン利用として集計。
出典：子ども調査2017～2018、子ども調査2019～2025(訪問留置)

資料6-5 スマートフォンの所有開始年齢[性別](単一回答)

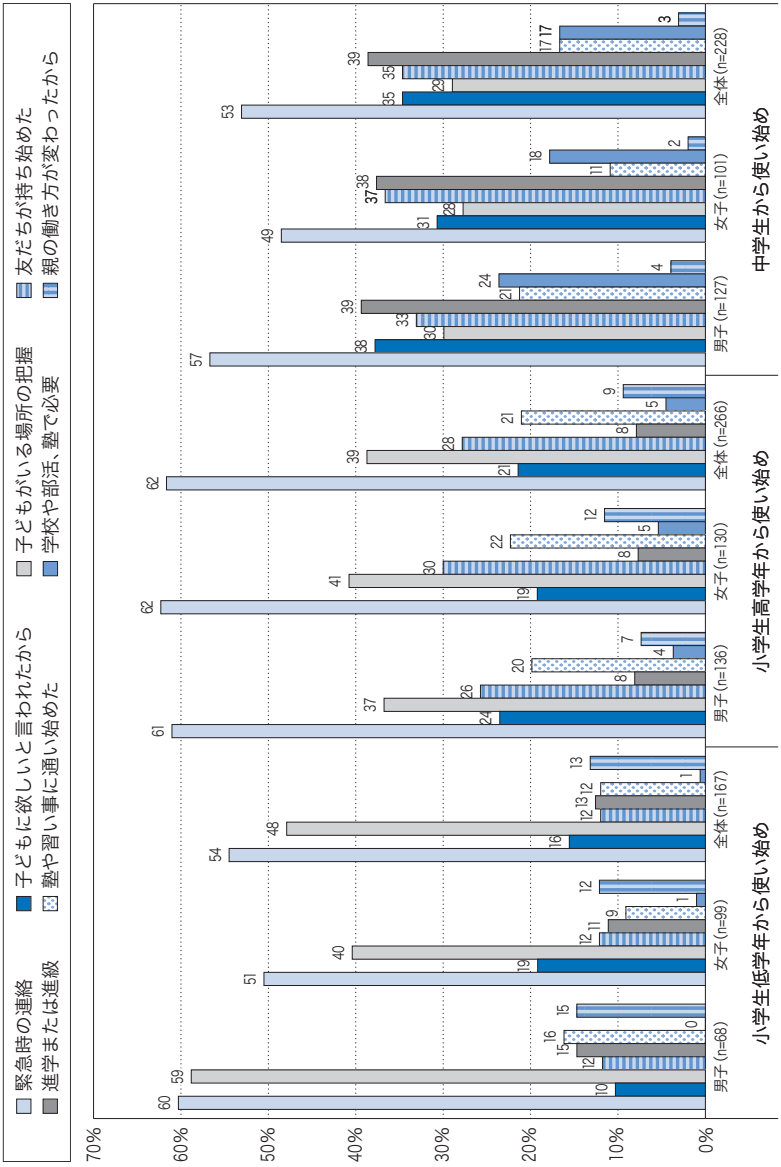
●スマートフォンの所有開始年齢は全体平均で10.1歳に。
●女子の平均は9.9歳と、初めて10歳を下回る。



注1：関東の小中学生の子どもを持つ保護者が回答。
注2：子どもが所有している機器の有無を保護者が回答。
出典：子ども調査2019～2025（訪問留置）

資料6-6 スマートフォン使い始め理由[性別](複数回答)

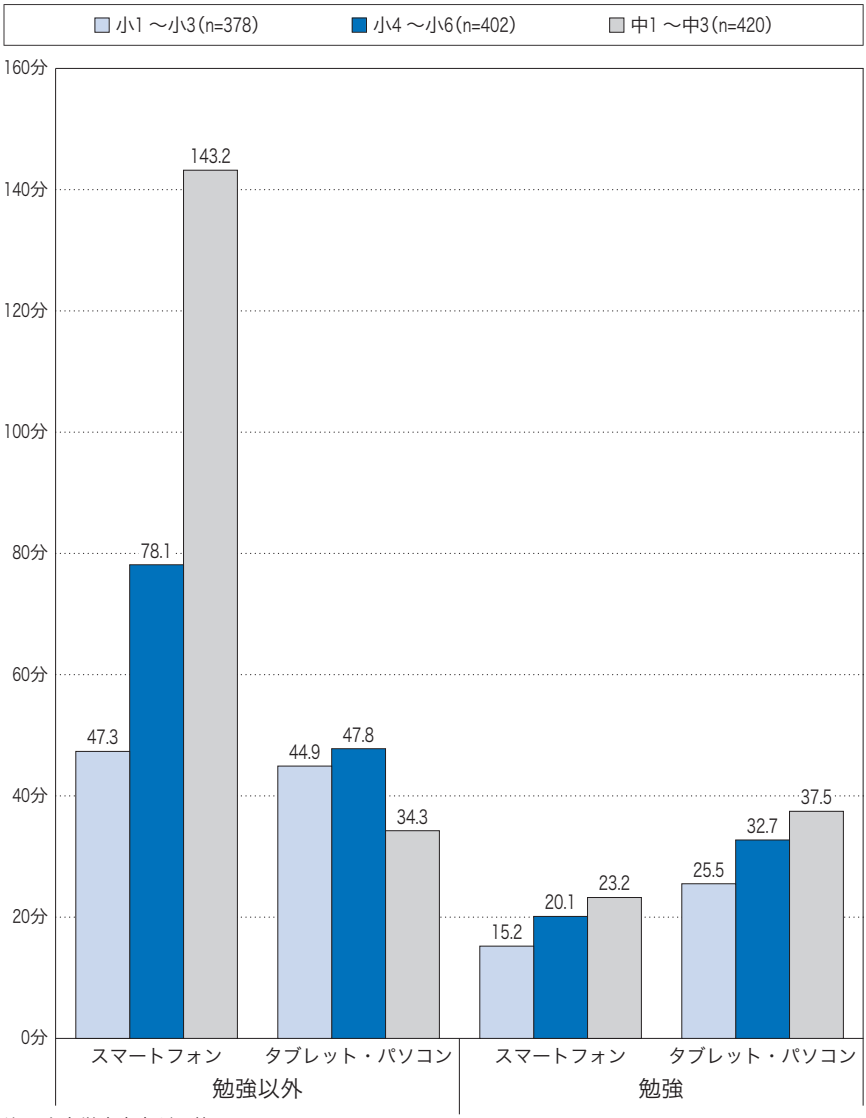
- いずれも「緊急時の連絡」が最も高く、約5割を超える。
- 小学生から使い始めの理由は「子どもがいる場所の把握」、中学生から使い始めの理由は「進学または進級」が第2位。



注：スマートフォンを持たせている保護者を集計。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-7 インターネット利用時間[学年別]

●「勉強以外」は全学年でスマートフォンがタブレット・パソコンを上回り、特に中学生では顕著。
●「勉強」では、どの学年でもタブレット・パソコンがスマートフォンを上回る。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

第2節

子どものICTサービス利用状況

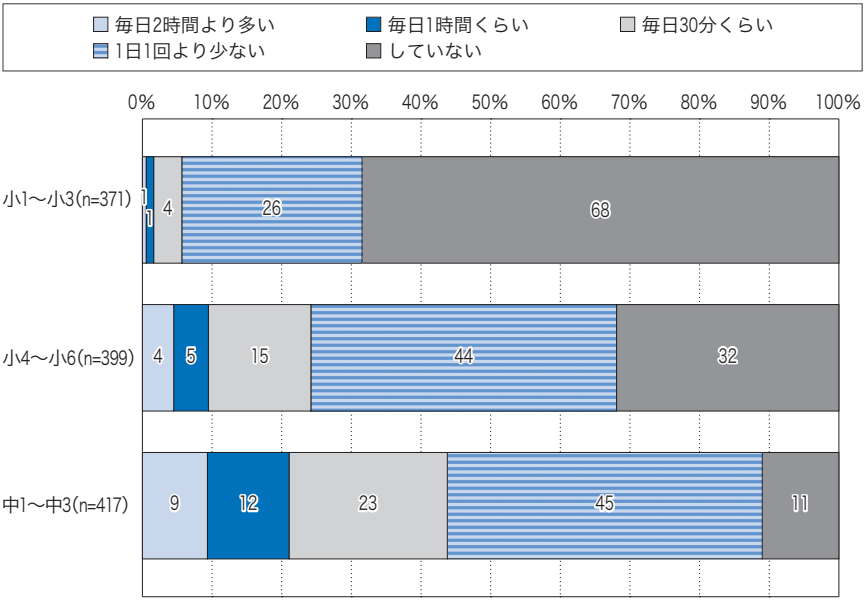
ICTサービス利用頻度、調べものでのICT利用頻度、文字入力スキル

ポイント

- SNS利用状況、小中学生全体では約6割、中学生では9割を超える（資料6-11）。
- 毎日学校や塾の宿題についてインターネットで調べたり動画を見たりする子ども、中学生で3割（資料6-14）。
- 生成AIの利用率、小学生高学年・中学生が大きく上昇、中学生は、子の利用率が親の利用率を上回る（資料6-16）。

資料6-8 通話(LINE通話など通話アプリも合わせた通話時間)の利用頻度[学年別](単一回答)

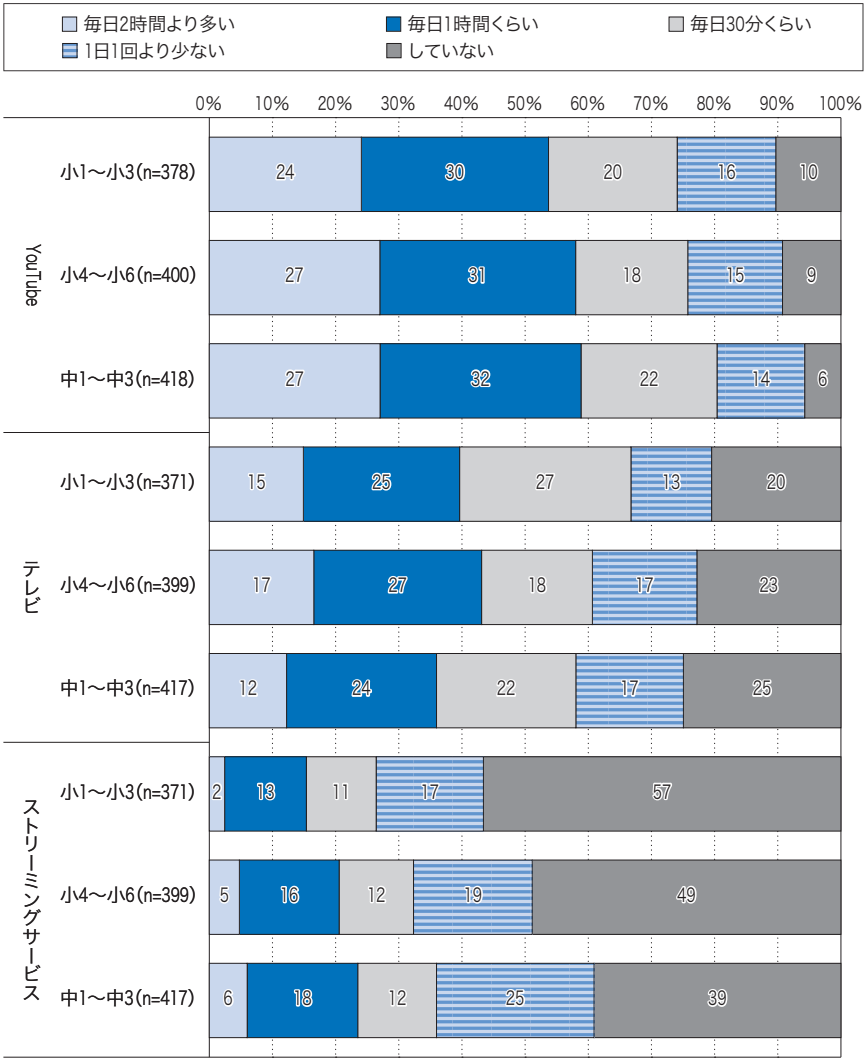
●通話利用時間は学年が上がるに伴い増え、中学生は4割強が毎日通話をしている。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-9 YouTube、テレビ、ストリーミングサービスの利用頻度[学年別]（単一回答）

●最も利用時間が長いのは全学年でYouTubeで、毎日利用が7割を超える。
●ストリーミングサービス（Netflix、Amazon Prime Videoなど）の利用も、全学年で3割前後。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

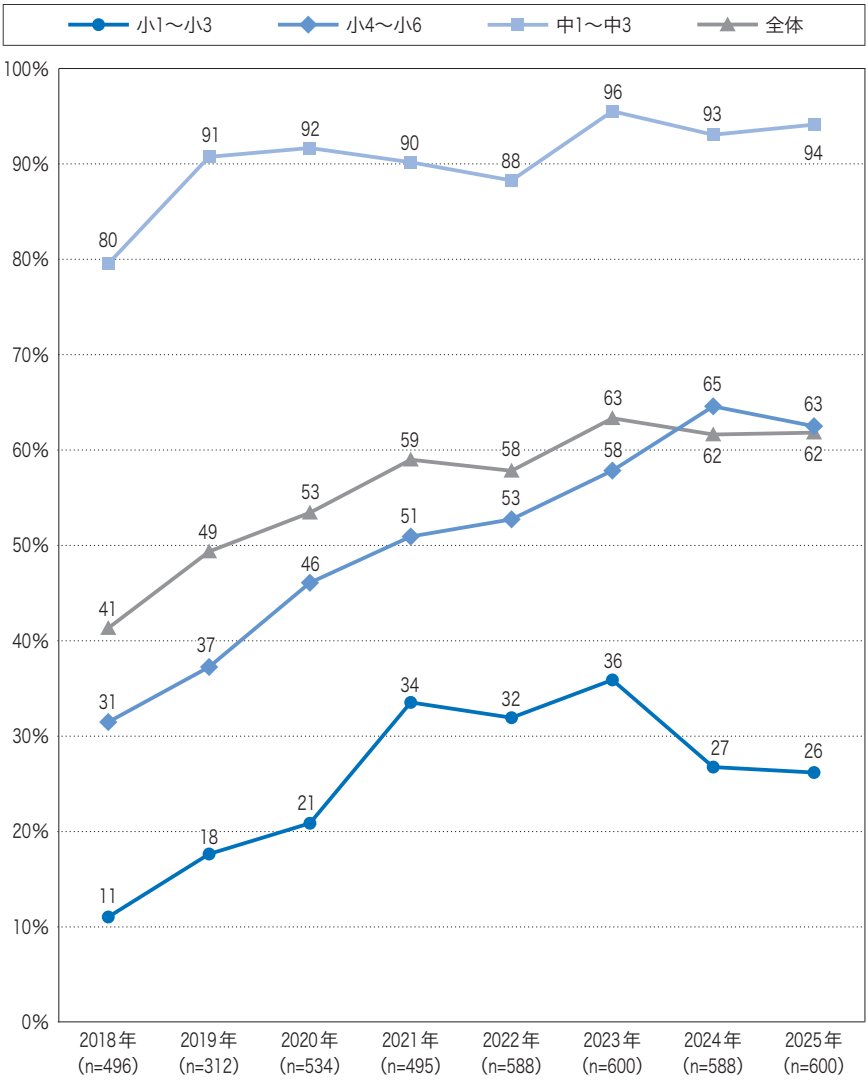
資料6-10 SNSの利用状況[性学年別](複数回答)

●中学生になるとLINE利用が9割を超え、TikTok利用も約半数を超える。
●全体的に女子の方が男子より利用率が高い傾向。

注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-11 SNSの利用状況の経年変化[学年別](単一回答)

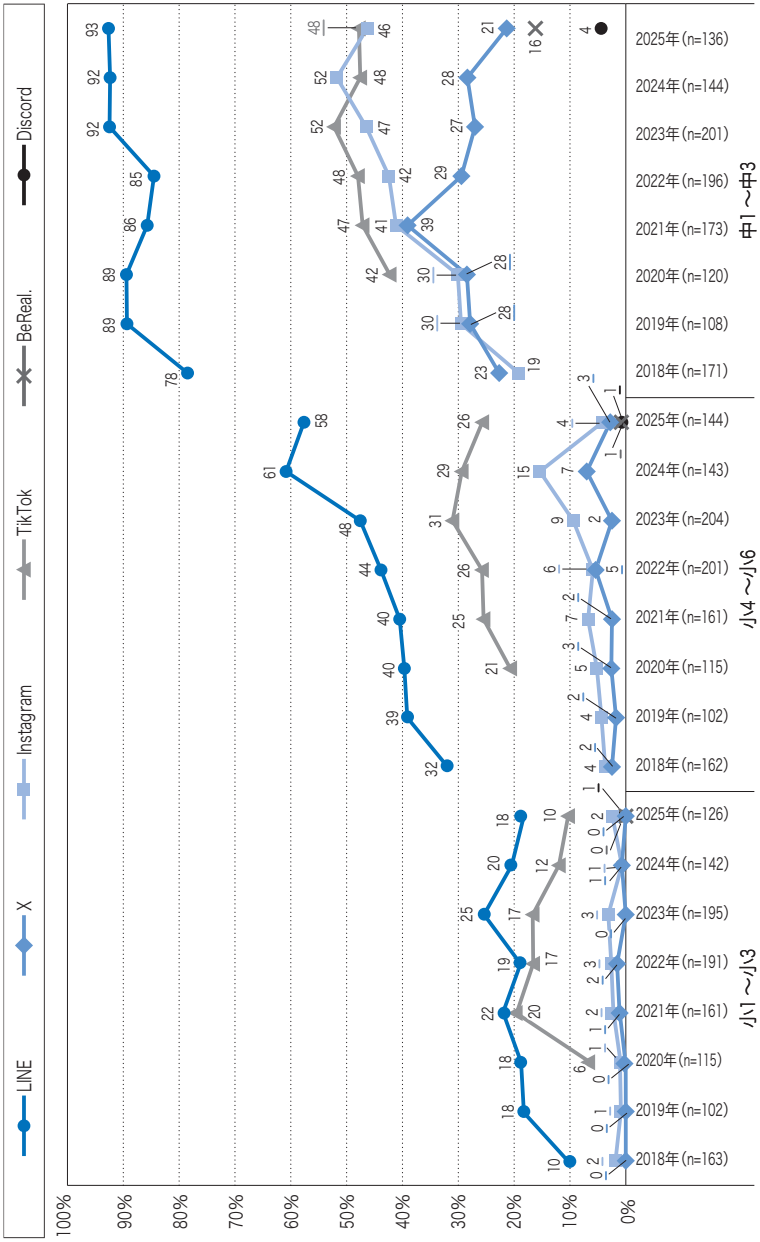
●2025年は、小中学生全体では約6割、中学生では9割を超える。
●経年変化は、全体的には横ばいの傾向



注1：関東の小中学生自身が回答。
注2：SNSは、2018〜2024年は「LINE」「X」「Instagram」「TikTok」、2025年は「BeReal」「Discord」を追加。
出典：子ども調査2018、子ども調査2019〜2025(訪問留置)

資料6-12 SNSのサービス別利用状況年次変化[学年別](複数回答)

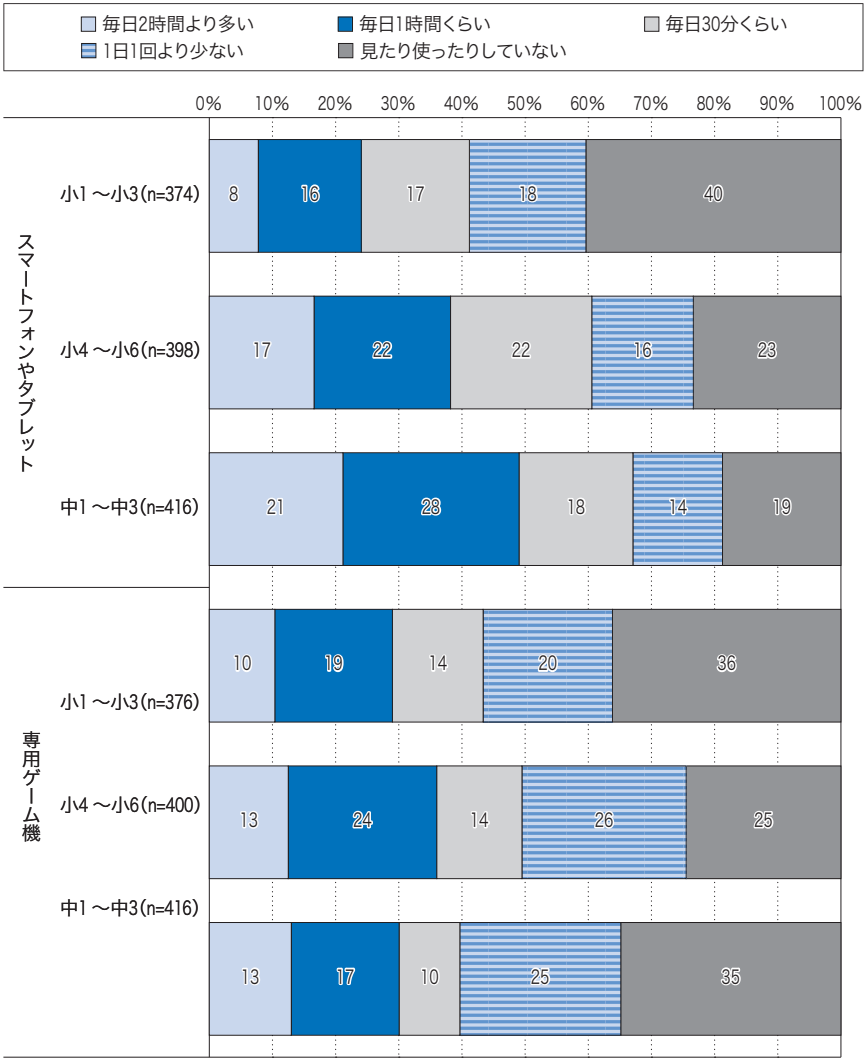
●各SNSの利用率の年次変化は、2025年は横ばいから、やや下降の傾向。



注1：関東の小中学生自身が回答。
注2：「BeReal.」「Discord」は2025年から聴取。
出典：子ども調査2018、子ども調査2019～2025(訪問留置)

資料6-13 スマートフォンやタブレット、専用ゲーム機でのゲーム利用頻度[学年別](単一回答)

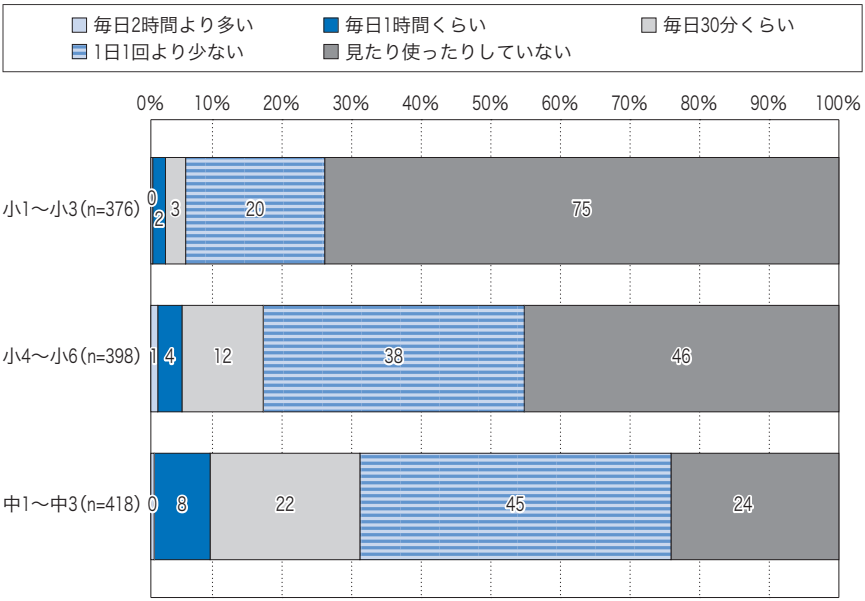
- 小学生高学年になると、専用ゲーム機での利用よりスマートフォンやタブレットでのゲーム利用が多くなる。
- スマートフォンやタブレットで毎日ゲームをする中学生は7割弱。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-14 学校や塾の宿題について、インターネットで調べたり動画を見たりする頻度[学年別](単一回答)

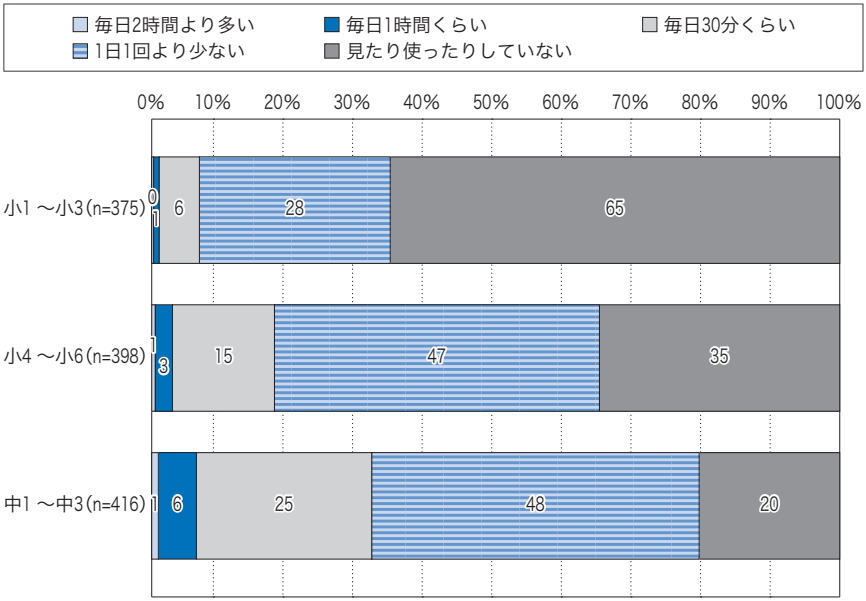
●毎日学校や塾の宿題についてインターネットで調べたり動画を見たりする子どもは中学生で3割。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-15 普段の生活で疑問に思ったことについてインターネットで調べたり動画を見たりする頻度[学年別](単一回答)

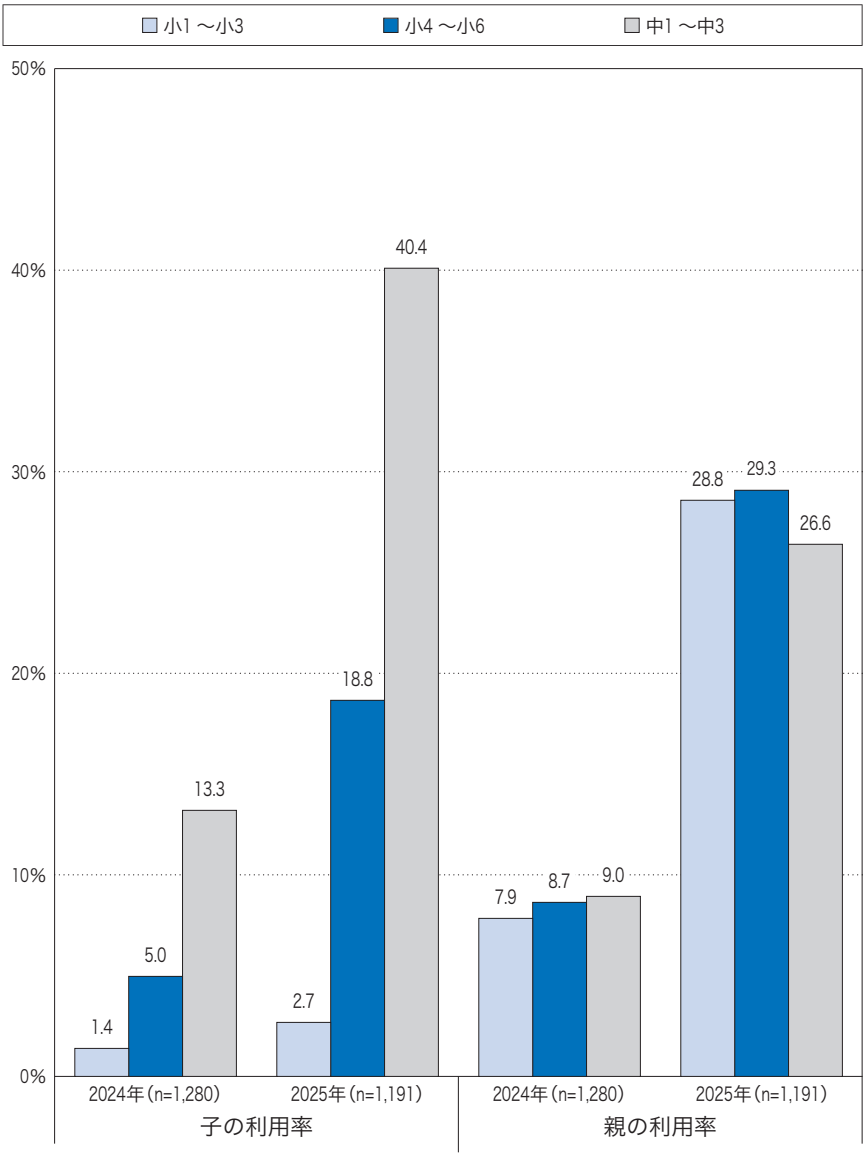
●小学生高学年は約2割、中学生は3割強が毎日利用している。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-16 生成AIの利用率[親子・学年別](単一回答)

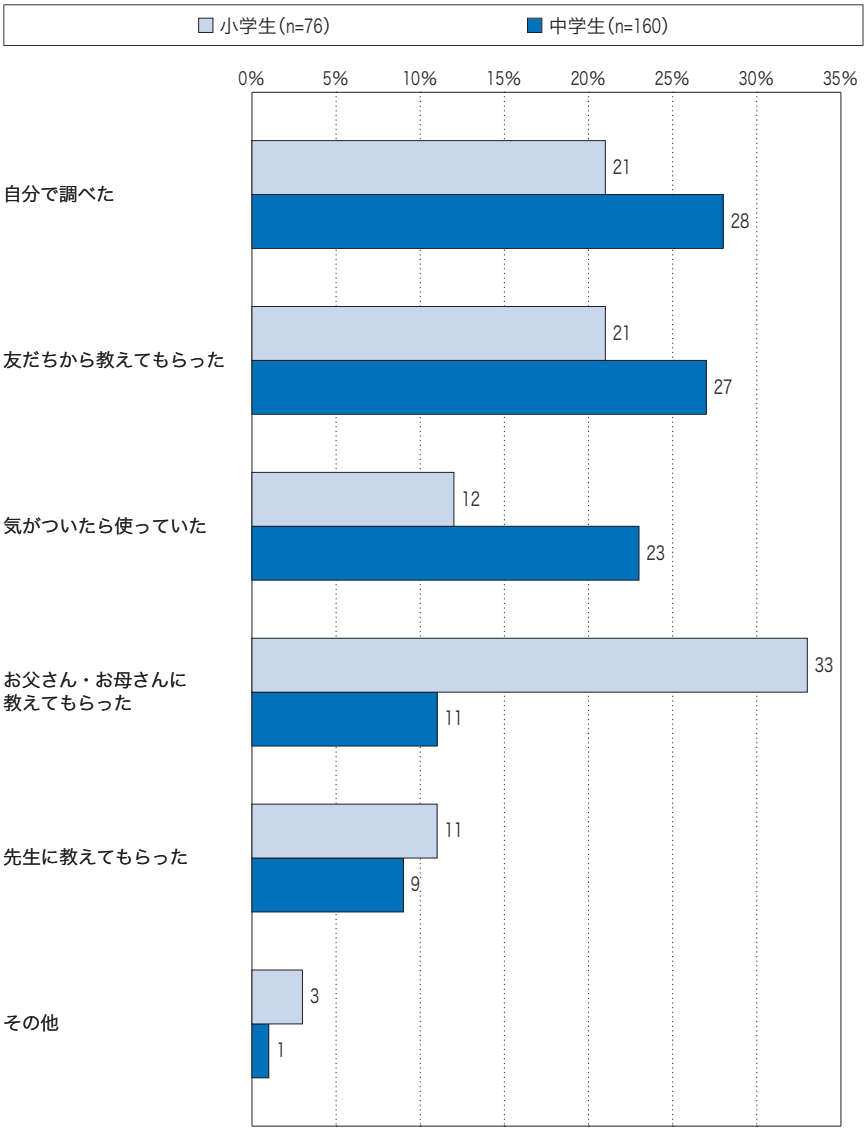
●生成AIの利用率は、小学生高学年・中学生の子ども、親が大きく上昇。
●中学生は、子の利用率が親の利用率を上回る。



出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-17 生成AIの使い始め理由[学年別](単一回答)

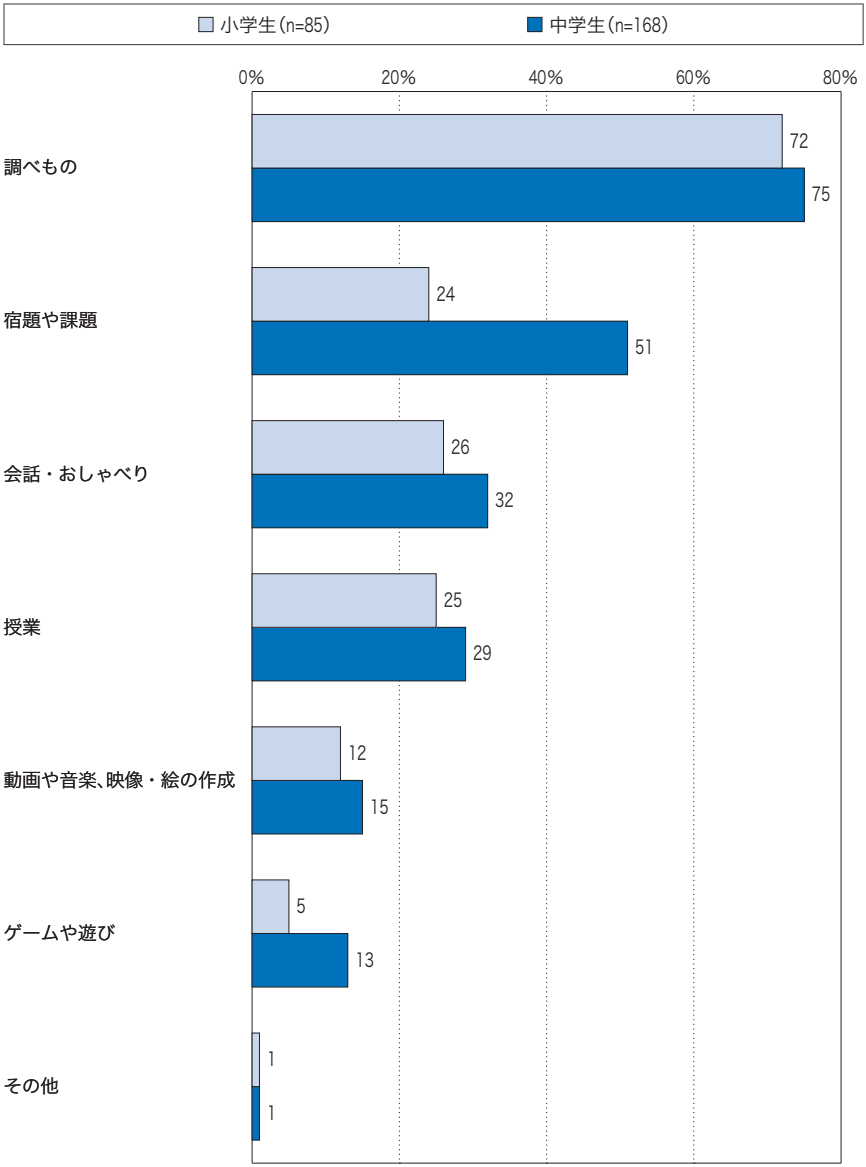
●使い始め理由では、中学生は「自分で調べた」、小学生は「お父さん・お母さんに教えてもらった」が最も高い。



注：生成AIを利用する小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-18 生成AIの利用用途[学年別](複数回答)

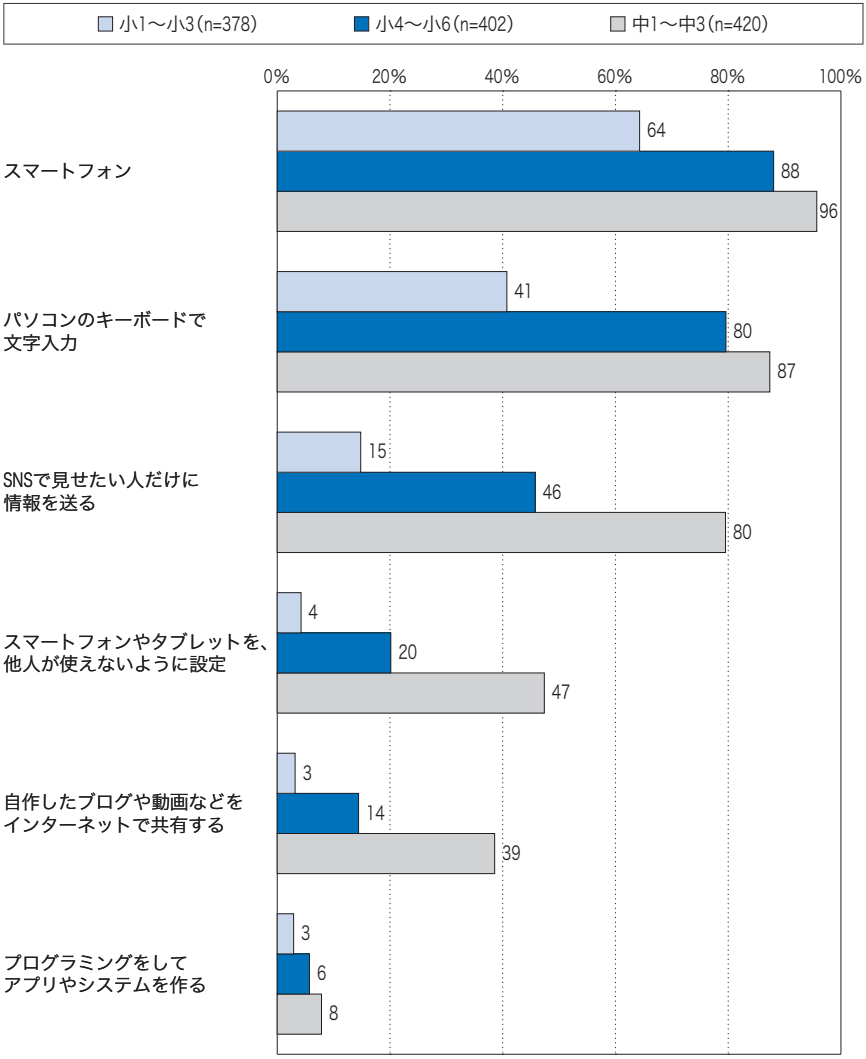
●小学生、中学生ともに、「調べもの」が最も高い。



注：生成AIを利用する小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-19 子どものICTスキル1[学年別](単一回答)

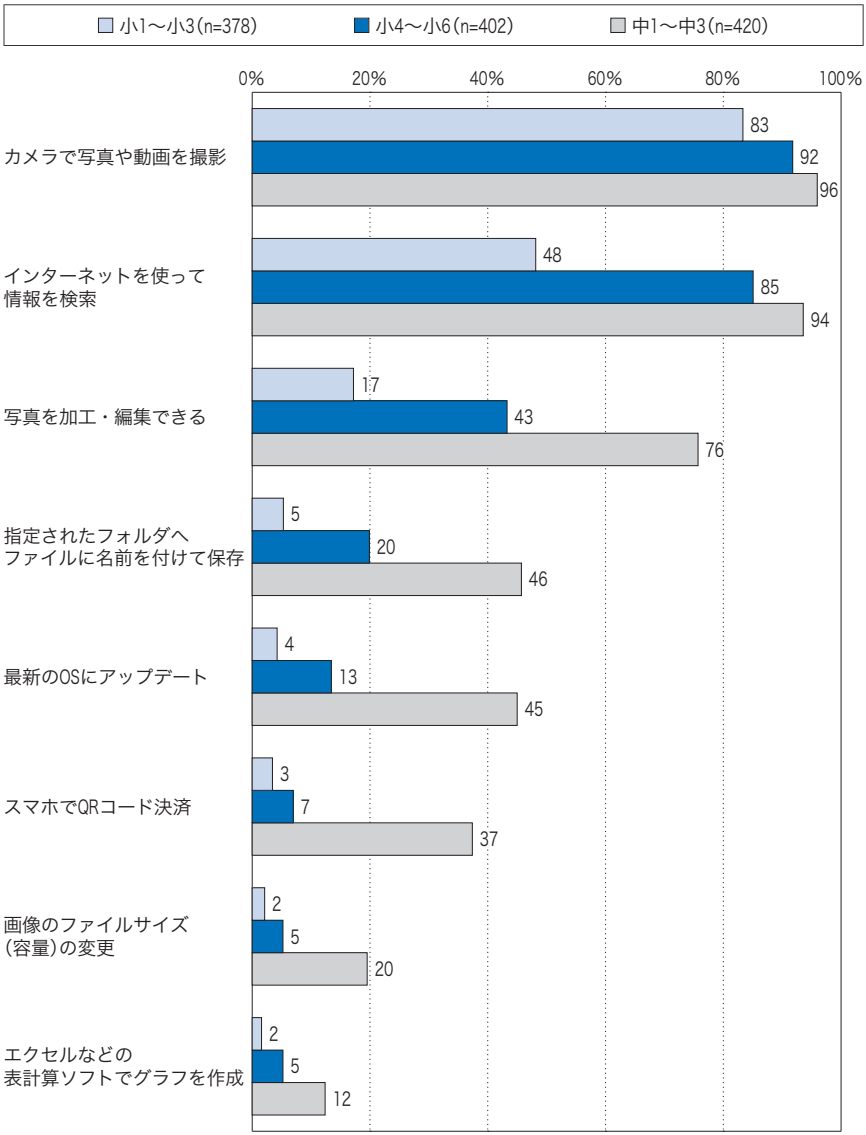
- スマートフォンの文字入力ができる割合は、小学生低学年でも6割を超え、高学年で約9割、中学生は96%。
- パソコンのキーボード入力は、小学生低学年約4割、高学年約8割、中学生は約9割ができると回答。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-20 子どものICTスキル2[学年別](単一回答)

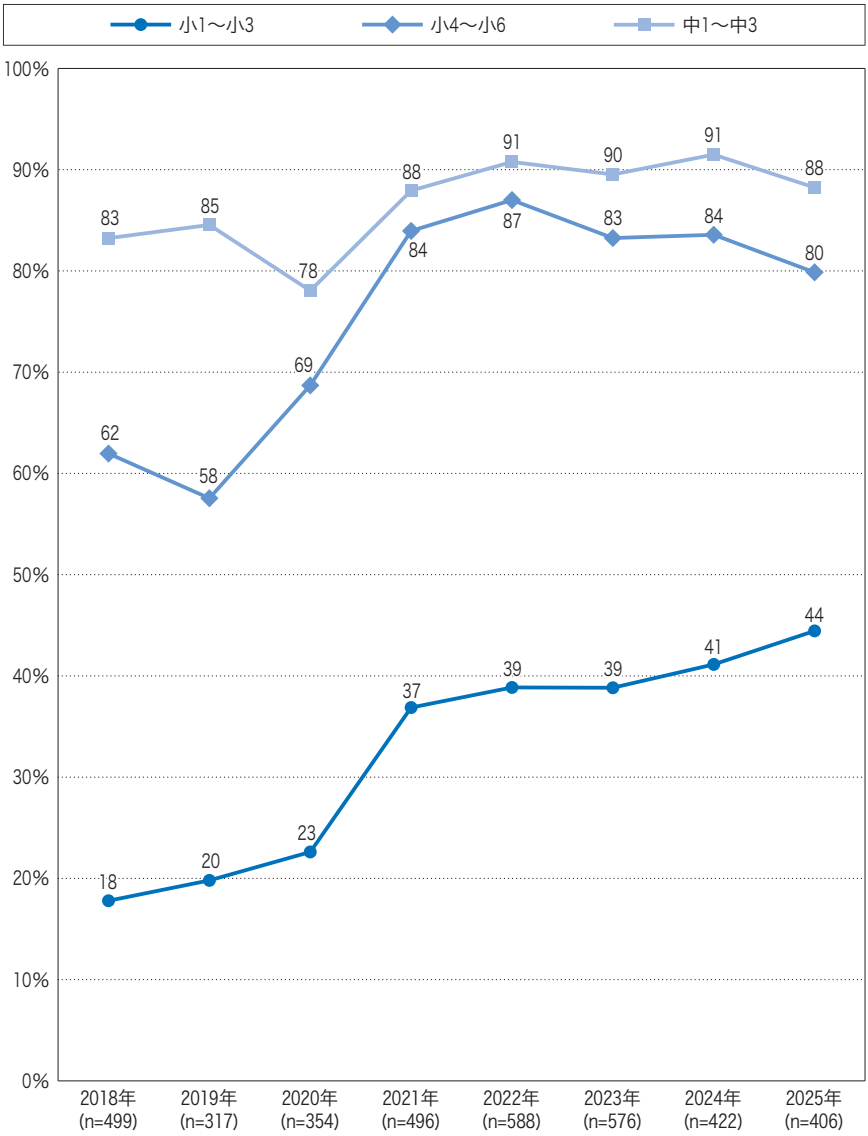
●「カメラで写真や動画を撮影」は、小学生低学年から8割を超える。
●「インターネットを使って情報を検索」は、小学生低学年で約5割。



注：小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-21 パソコンでの文字入力年次変化[学年別](単一回答)

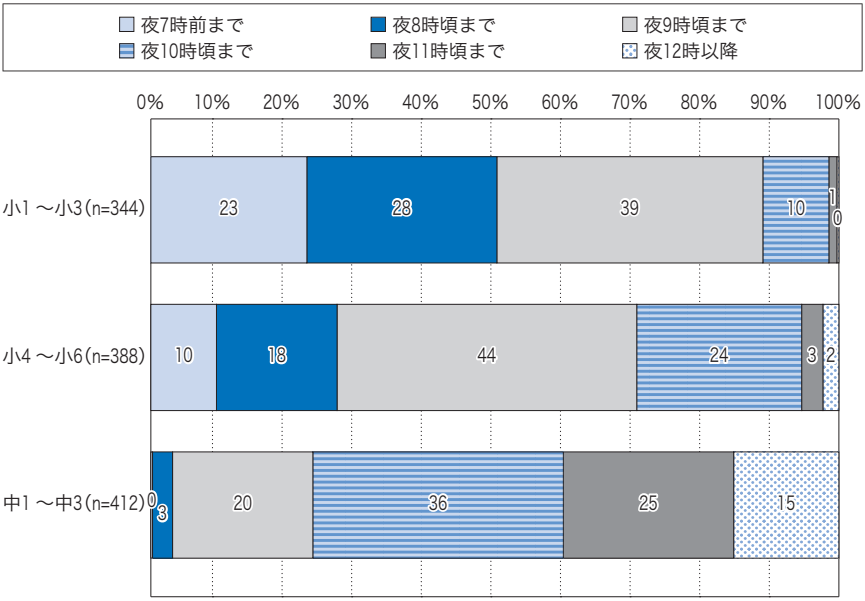
●パソコンの文字入力スキルは、2020年から2021年にかけて上昇。
●小学生低学年は、緩やかに上昇傾向、小学生高学年・中学生は横ばい。



注：関東の小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2018、子ども調査2019～2025(訪問留置)

資料6-22 インターネット（検索、YouTube、オンラインゲーム、LINEなど）利用終了時間［学年別］（単一回答）

●中学生では、8割弱が夜10時頃まで、またはそれ以降までインターネットを利用。



注：インターネットを利用する小中学生自身が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

第3節

保護者の意識と親子間ルール

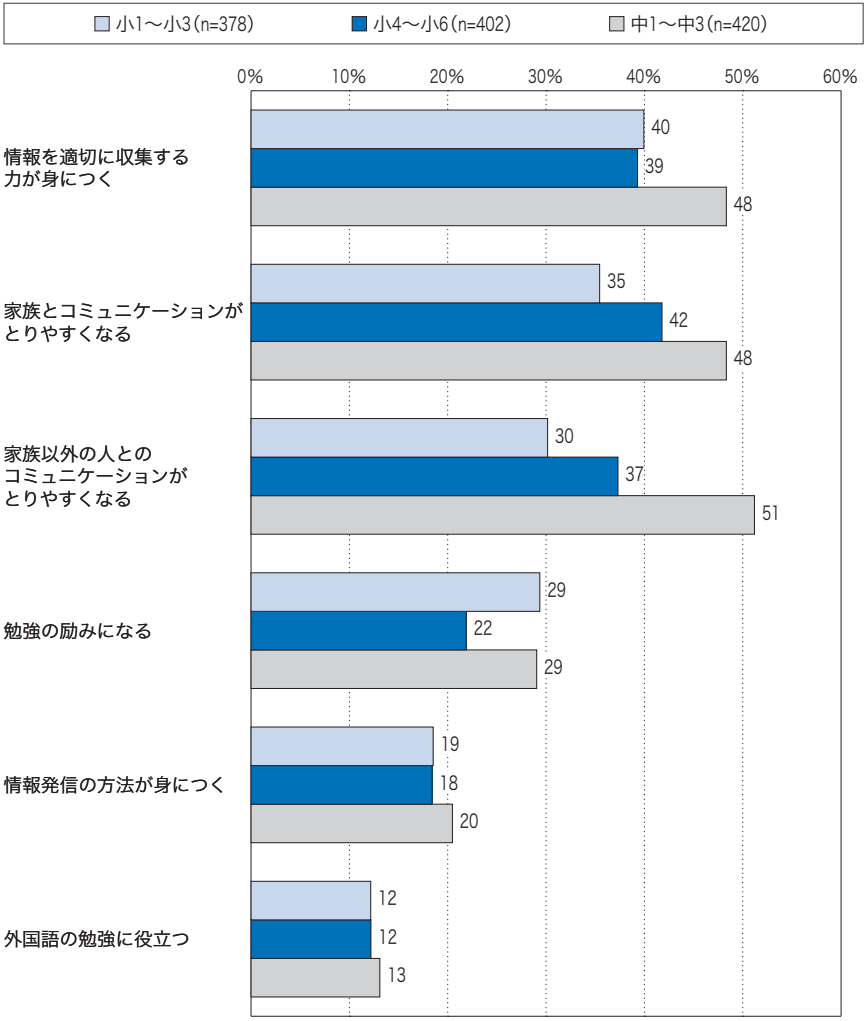
子どものICT利用への期待や不安、親子間ルール設定率、親子の連絡頻度、フィルタリング利用率

ポイント

- 子どものICT利用に関する保護者の期待、小学生低学年では「情報を適切に収集する力が身につく」が最も高い（資料6-23）。
- 会話時間は中学生になると減少するが、親子間のメッセージの頻度は多くなる（資料6-28、資料6-30）。
- ペアレンタルコントロールの利用状況、小学生は77%、中学生は65%（資料6-31）。

資料6-23 子どものICT利用に関する保護者の期待[学年別](複数回答)

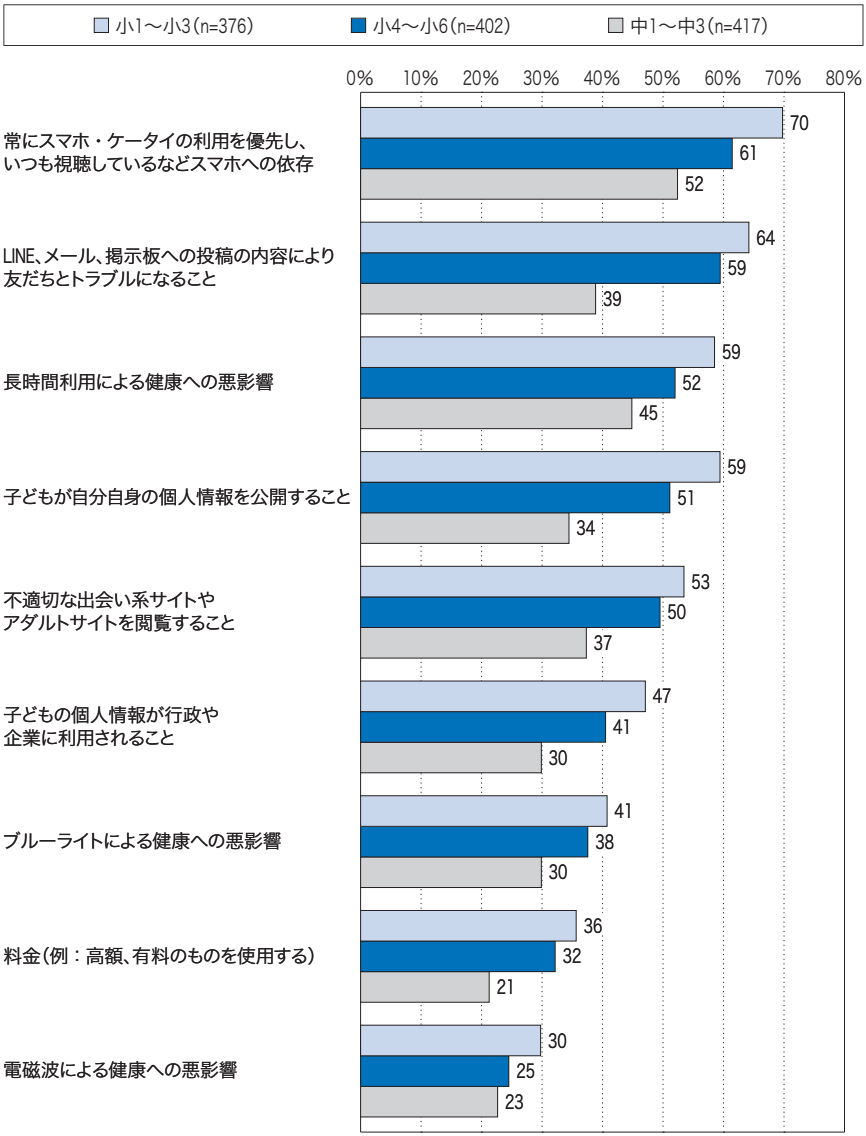
- 小学生低学年では「情報を適切に収集する力が身につく」への期待が最も高い。
- 「コミュニケーションがとりやすくなる」は、小学生では「家族とのコミュニケーション」が高いが、中学生になると「家族以外の人とのコミュニケーション」への期待が高くなる。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-24 子どものICT利用に関する保護者の不安[学年別](複数回答)

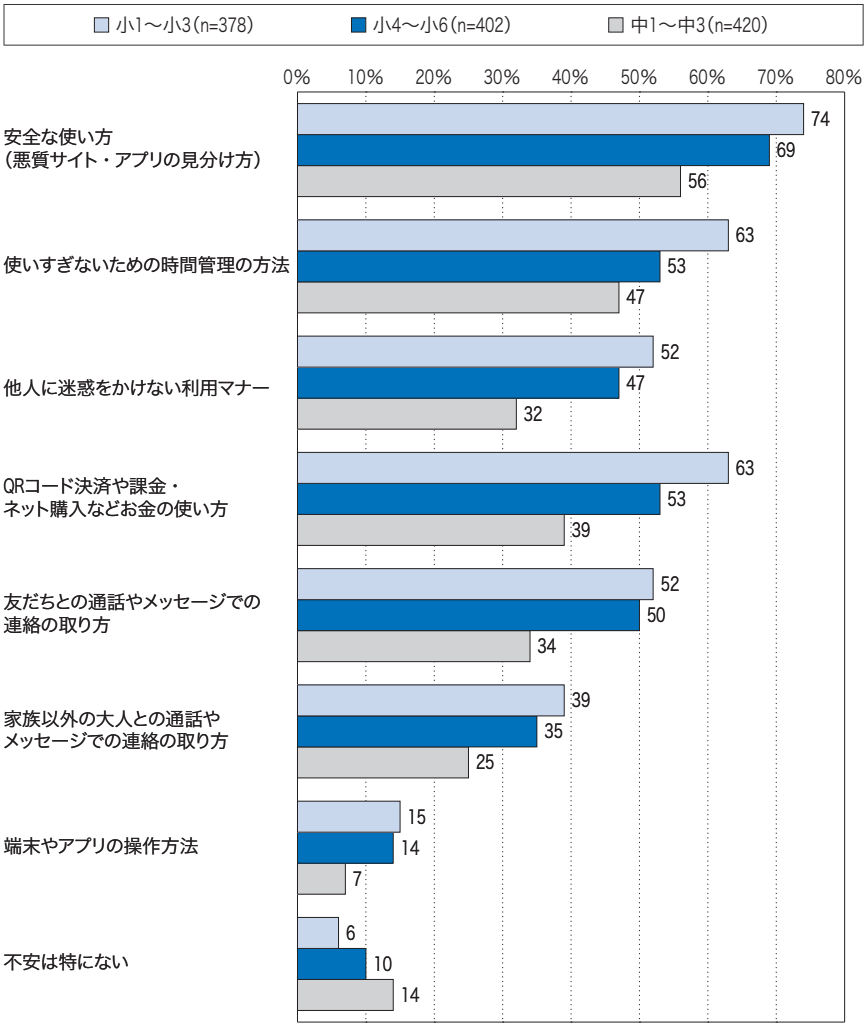
●学年が低い保護者の方が不安が高く、学年が上がると下がっていく傾向。
●「スマホへの依存」への不安が全学年で最も高い。



注:小中学生の保護者が回答。
出典:子ども調査2025(訪問留置)

資料6-25 子どもに携帯電話の利用を教える場合に保護者が感じる不安［学年別］（複数回答）

- 学年が低い保護者の方が不安が高く、学年が上がると下がっていく傾向。
- 「安全な使い方」が約6～7割と、全学年で最も高い。
- 「端末やアプリの操作方法」はいずれの学年も比較的不安に感じる割合は低く、1割前後。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-26 スマートフォン利用の親子間ルールの設定率[学年別](複数回答)

●「料金(課金)」に関するルールは全学年で最も高い。
●「場所や時間」に関するルールは小学生で高い。
●「個人情報」に関するルールは小学生高学年、中学生で高い。

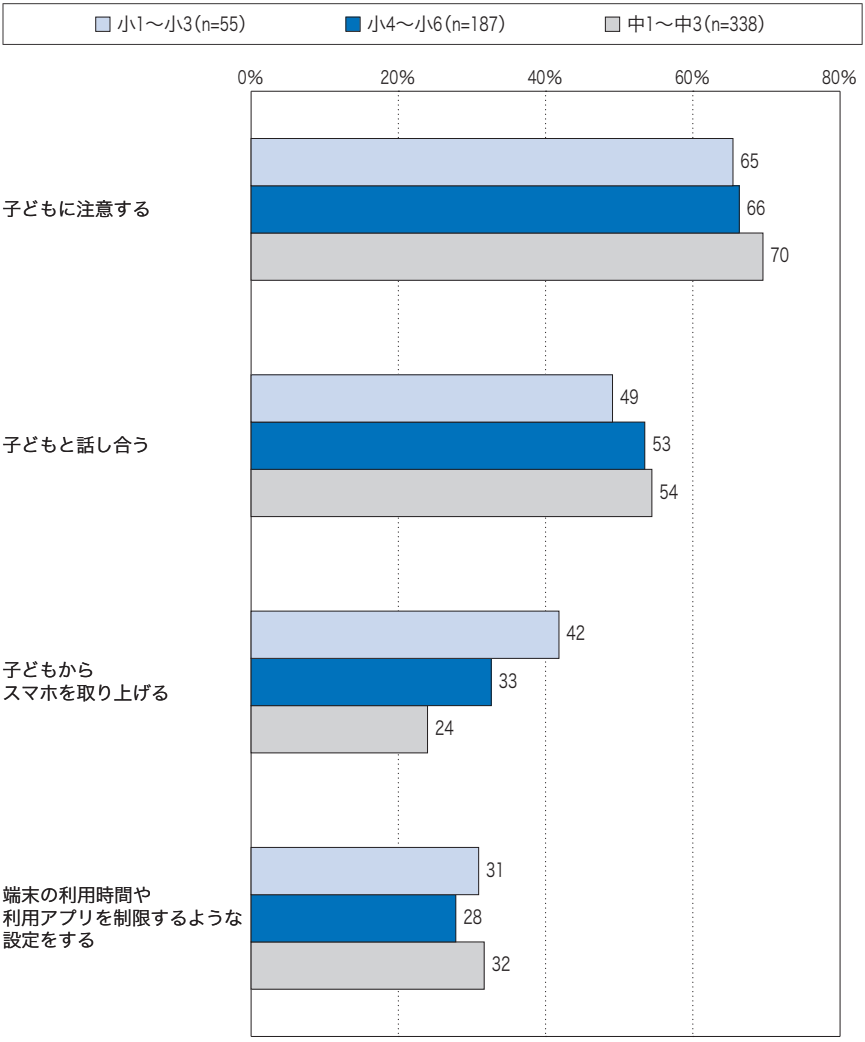
(%)

小1〜小3(n=65)		小4〜小6(n=193)		中1〜中3(n=365)	
勝手に課金・ネット購入をしない	68	勝手に課金・ネット購入をしない	87	勝手に課金・ネット購入をしない	84
スマホを使うのは決められた時間だけ	63	面識のない人とは連絡や連絡先の交換をしない	74	面識のない人とは連絡や連絡先の交換をしない	62
食事中にスマホを利用しない	58	食事中にスマホを利用しない	72	個人情報や本人だと特定できる写真をネット上にアップしない	60
アプリをダウンロードするときは保護者に相談し、追加料金がかからないようにする	55	アプリをダウンロードするときは保護者に相談し、追加料金がかからないようにする	72	アプリをダウンロードするときは保護者に相談し、追加料金がかからないようにする	56
面識のない人とは連絡や連絡先の交換をしない	46	スマホを使うのは決められた時間だけ	70	食事中にスマホを利用しない	54
歩行中や自転車に乗りながらスマホを利用しない	42	歩行中や自転車に乗りながらスマホを利用しない	68	歩行中や自転車に乗りながらスマホを利用しない	54
個人情報や本人だと特定できる写真をネット上にアップしない	40	個人情報や本人だと特定できる写真をネット上にアップしない	63	スマホを使うのは決められた時間だけ	55

注1：スマートフォンを利用する小中学生の保護者が回答。
注2：場所や時間、料金(課金)、個人情報
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-27 子どもがスマートフォン利用の親子間ルールを破った際の行動［学年別］（複数回答）

●親子間ルールを破った際には「子どもに注意する」が全学年で6～7割と最も高く、次に「子どもと話し合う」が約5割と続く。

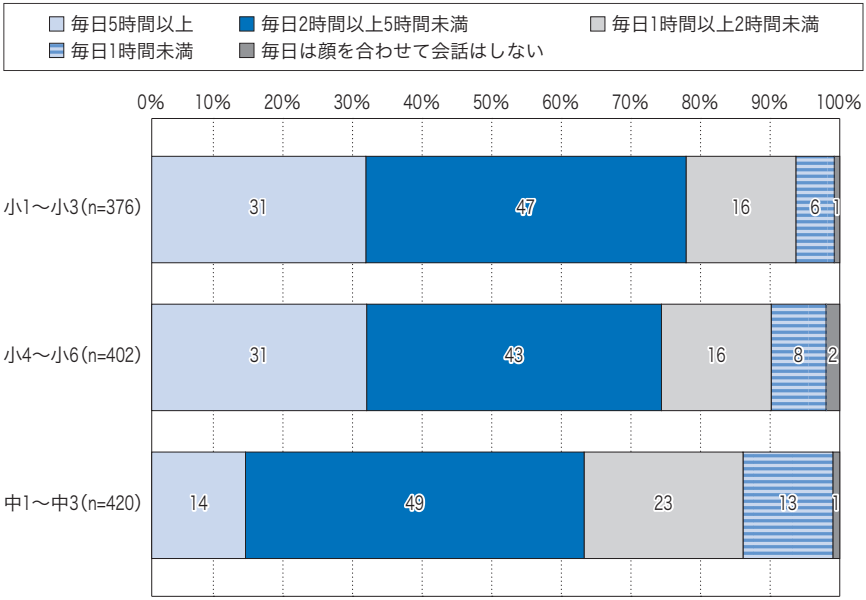


注：スマートフォン利用で親子間ルールを設定している小中学生の保護者が回答。「もしお子さまが携帯電話利用の親子間ルールを破ったらどうしますか。あてはまるものをすべてお選びください」と質問。

出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-28 親子間の直接顔を合わせた会話時間[学年別](単一回答)

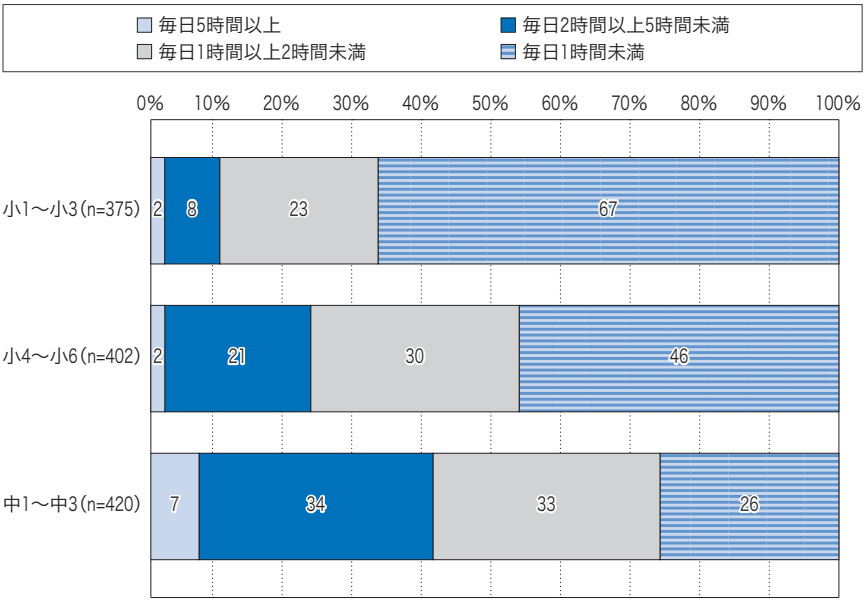
- 会話時間は中学生になると減少し、特に毎日5時間以上は約3割から1割強に減少。
- 毎日2時間以上会話する割合は、小学生では7割強～8割弱だが、中学生では約6割。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-29 子どもが一人で過ごす時間[学年別](単一回答)

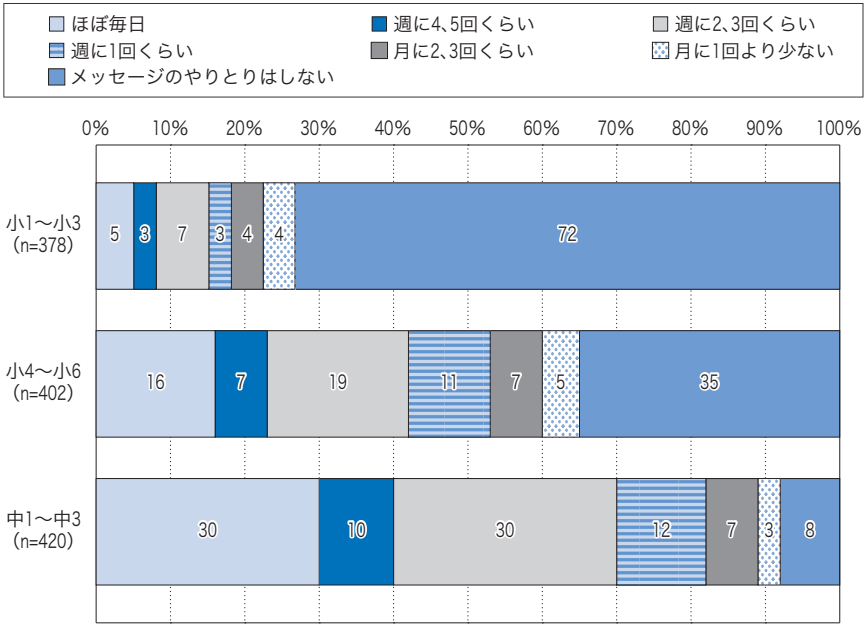
- 子どもが一人で過ごす時間は学年が上がるにつれて長くなる傾向。
- 毎日2時間以上の割合は、小学生低学年が1割弱、高学年が2割強、中学生が約4割。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-30 親子間のメッセージ(LINEやメールなど)のやりとりの頻度[学年別](単一回答)

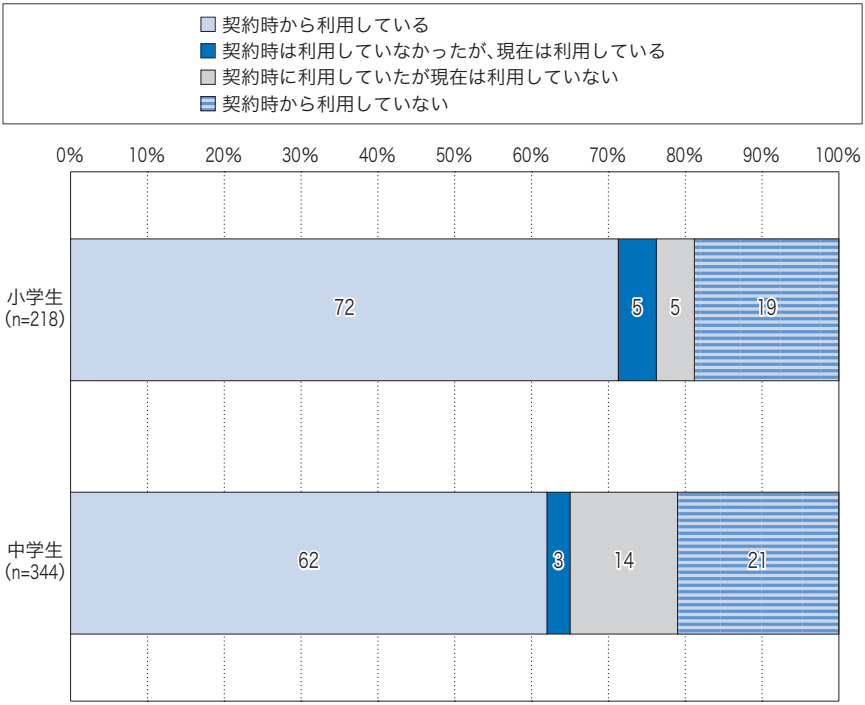
●親子間のメッセージ利用頻度は学年が上がると多くなる傾向。
●中学生は、ほぼ毎日が3割、週に1回以上で8割を超える。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-31 ペアレンタルコントロールの利用状況[学年別](単一回答)

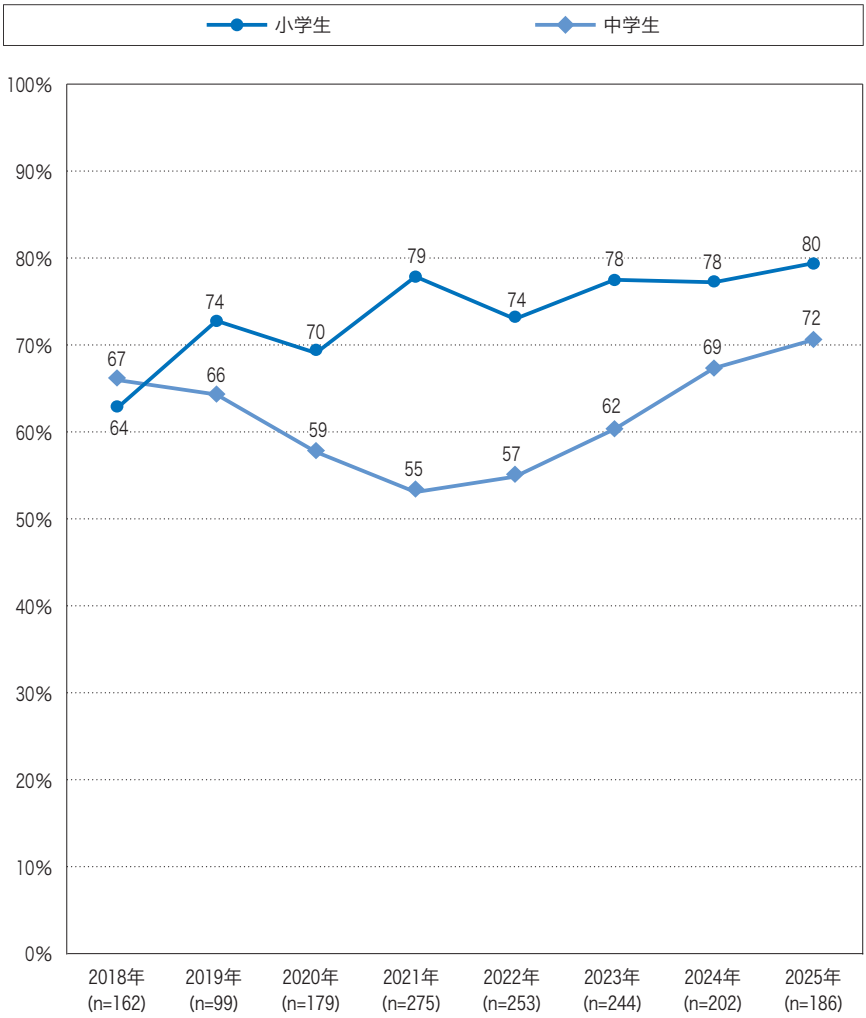
●小学生は77%、中学生は65%が、現在もペアレンタルコントロールを利用。
●中学生は「契約時に利用していたが現在は利用していない」が14%。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-32 フィルタリングや利用制限などのペアレンタルコントロール利用率の年次推移[学年別](単一回答)

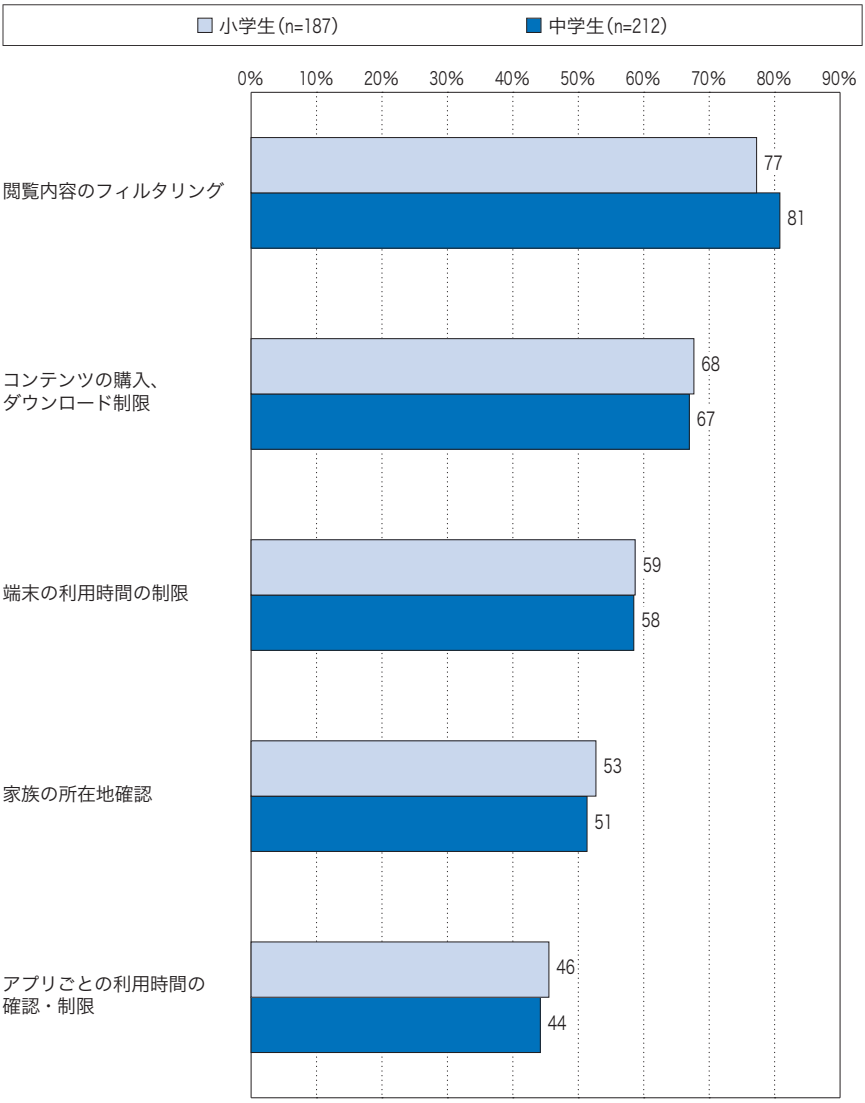
●小学生の利用率はここ数年横ばい傾向。
●中学生の利用率は緩やかに上昇。



注1：関東の小中学生を持つ保護者が回答。
注2：「あなたのお子さまの携帯電話はフィルタリングや利用制限などの、ペアレンタル・コントロール・サービスを利用できますか。また、実際に利用していますか」と質問。
注3：スマートフォンを所有している子の親が対象。
出典：子ども調査2018、子ども調査2019〜2025（訪問留置）

資料6-33 ペアレンタルコントロールの種類[学年別](複数回答)

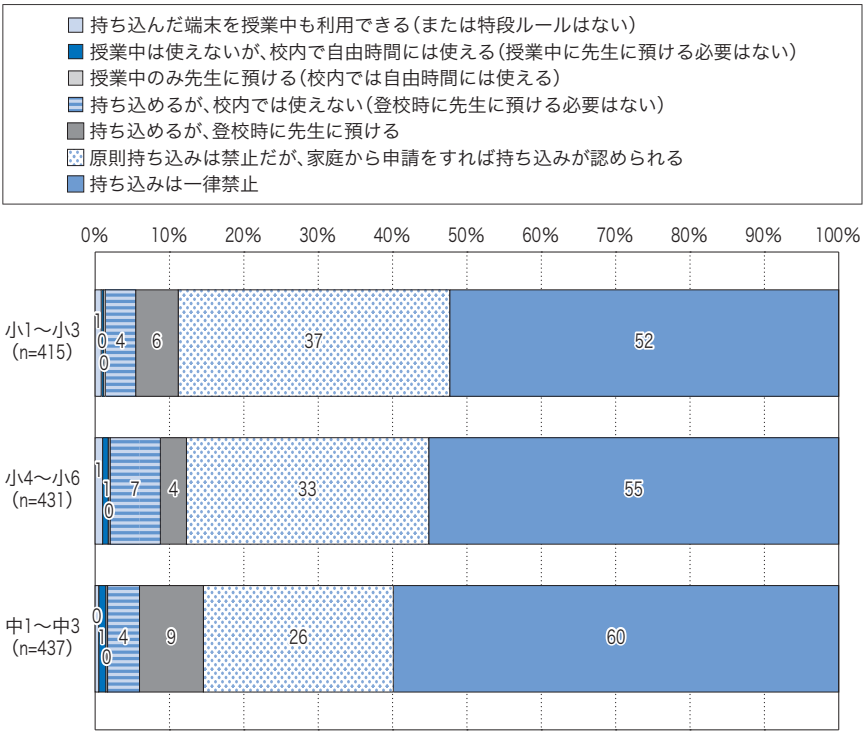
●「閲覧内容のフィルタリング」が最も高く約8割、次いで「コンテンツの購入、ダウンロード制限」が約7割、「端末の利用時間の制限」が約6割と続く。



注1：小中学生の保護者が回答。
注2：専用のスマートフォンを所有し、ペアレンタルコントロールを実施している人が対象。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-34 校内での私物の携帯電話の利用ルール[学年別](単一回答)

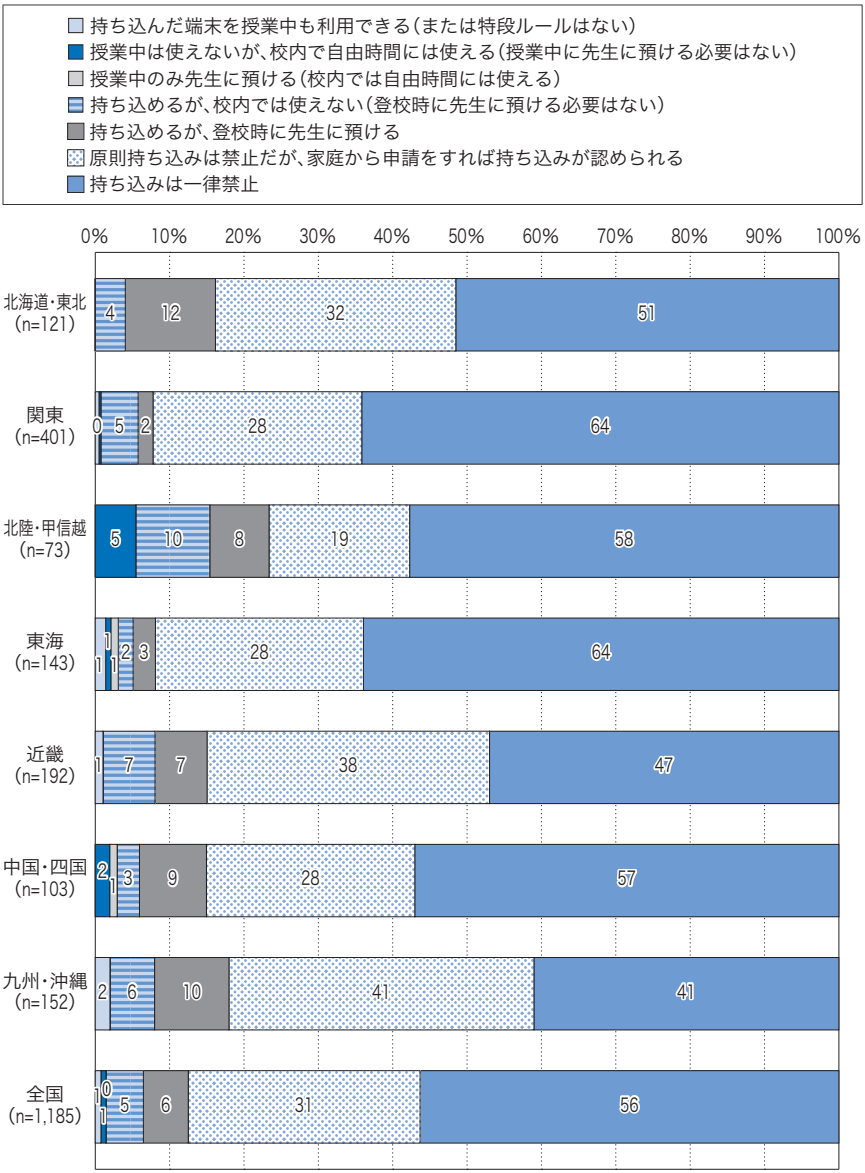
- 「持ち込みは一律禁止」が、全学年最も高く、5～6割。
- 持ち込める中では「原則持ち込みは禁止だが、家庭から申請をすれば持ち込みが認められる」が最も高い。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-35 校内での私物の携帯電話の利用ルール[地域別](単一回答)

●「持ち込みは一律禁止」は、関東・東海が64%と、最も高い。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

第4節

学校との関わり

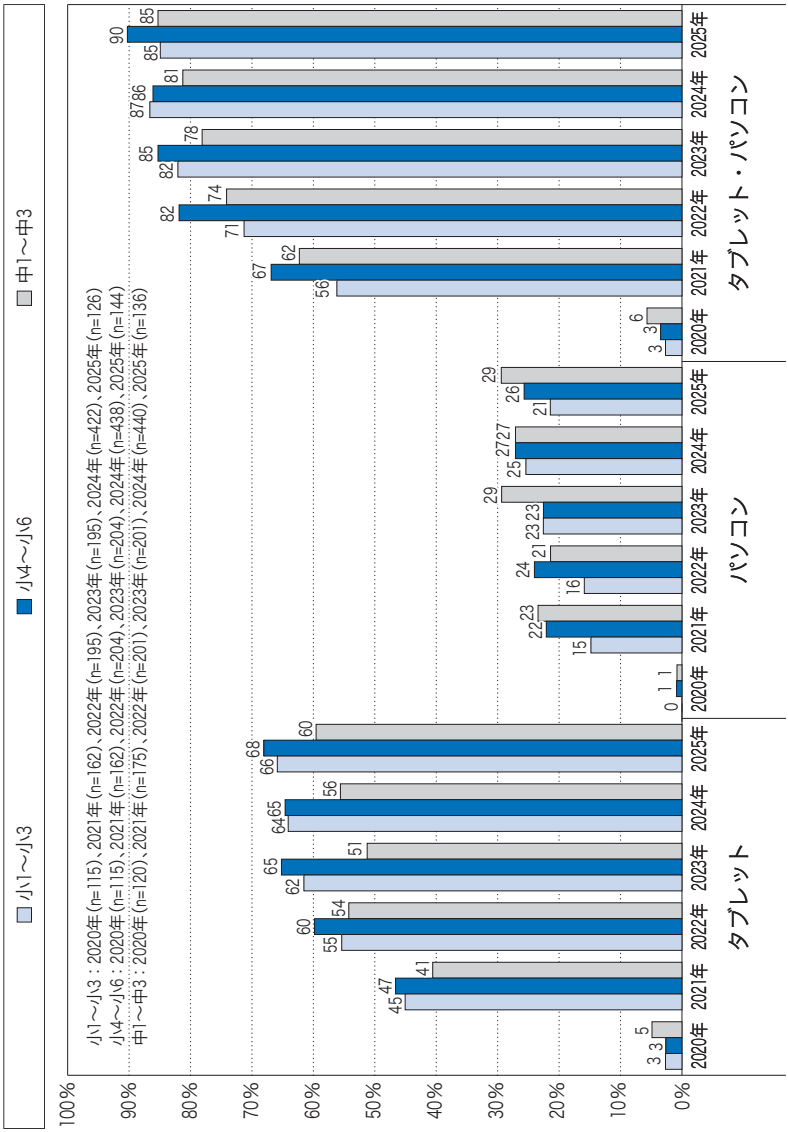
タブレット・パソコンの利用、貸与された端末の活用、オンライン授業の感想

ポイント

- 8割以上の子どもが、貸与された「タブレット」「パソコン」のいずれかを家庭で利用している（資料6-36）。
- 学校の授業でのタブレット・パソコンの利用、小学生高学年と中学生は約8割、小学生低学年では約6割が週に1回以上（資料6-41）。
- ICTを使った授業の感想、「わかりやすい」約9割、「勉強が楽しくなる」が8割強、「遊んでしまう」が約5割（資料6-44）。

資料6-36 学校から貸与されたタブレット・パソコンの家庭での利用年次推移[学年別](複数回答)

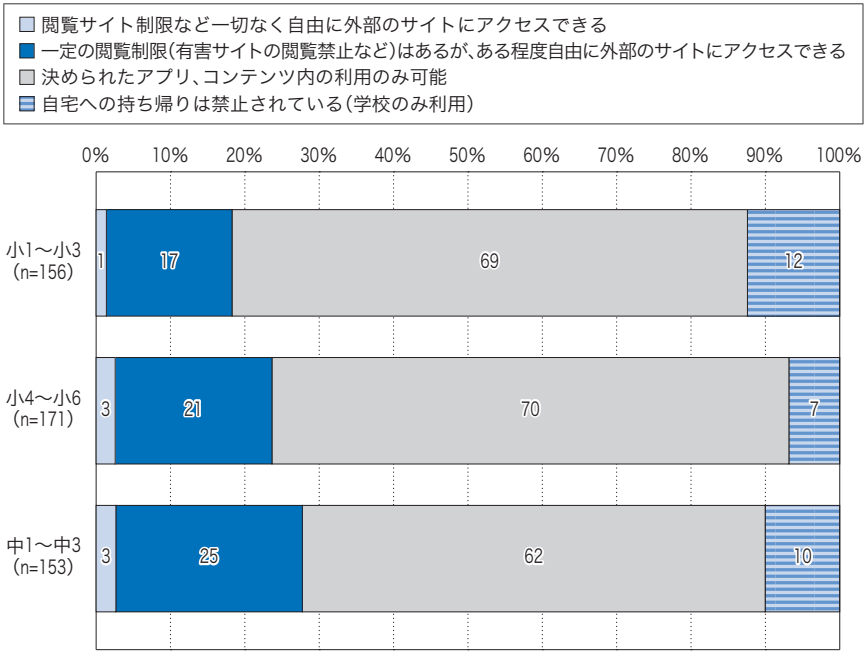
●貸与された「タブレット」「パソコン」利用は2021年に大幅に増加。
●全学年で85～90%が、貸与された「タブレット」「パソコン」のいずれかを家庭で利用している。



注：関東の小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-37 学校から貸与されたタブレット・パソコンの家庭利用時の制限［学年別］（単一回答）

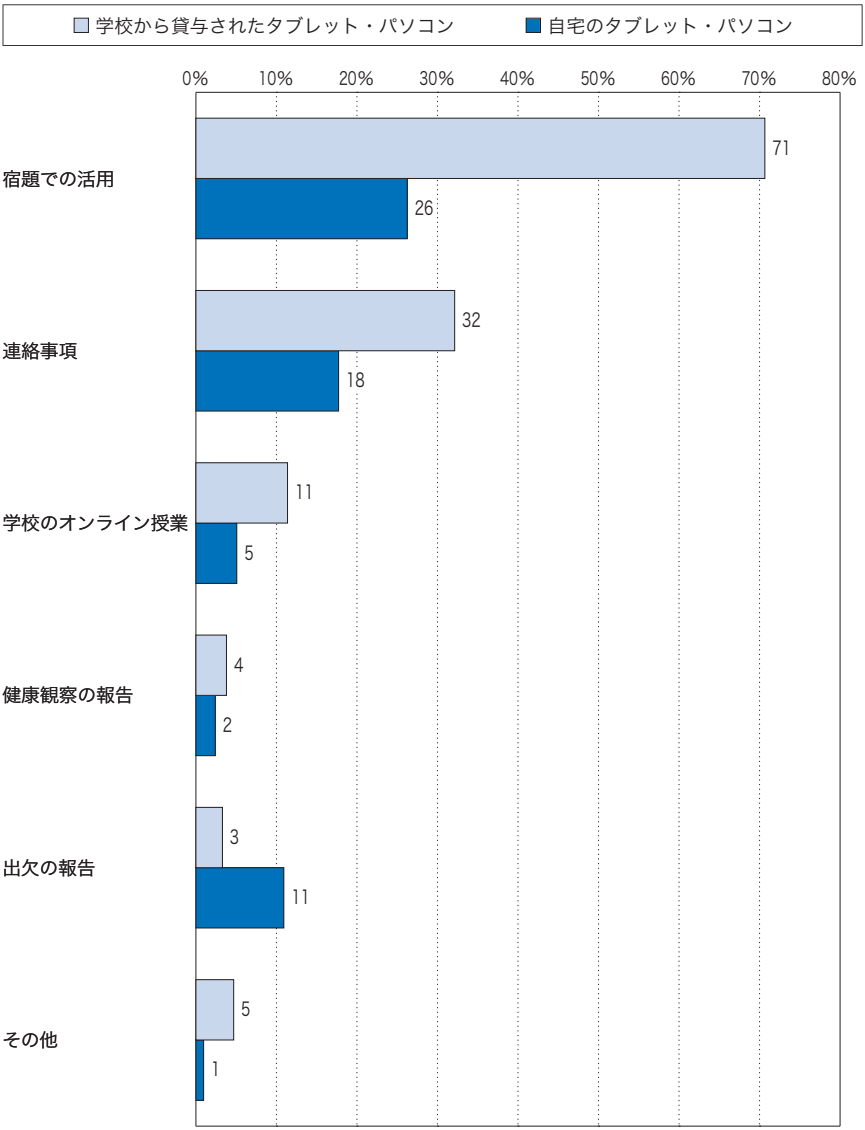
●約6～7割が「決められたアプリ、コンテンツ内の利用のみ可能」。
●「自宅への持ち帰り禁止」は全学年1割程度。



注1：小中学生の保護者が回答。
注2：学校からタブレット・パソコンが貸与された子が対象。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-38 家庭でのタブレット・パソコンの活用状況（複数回答）

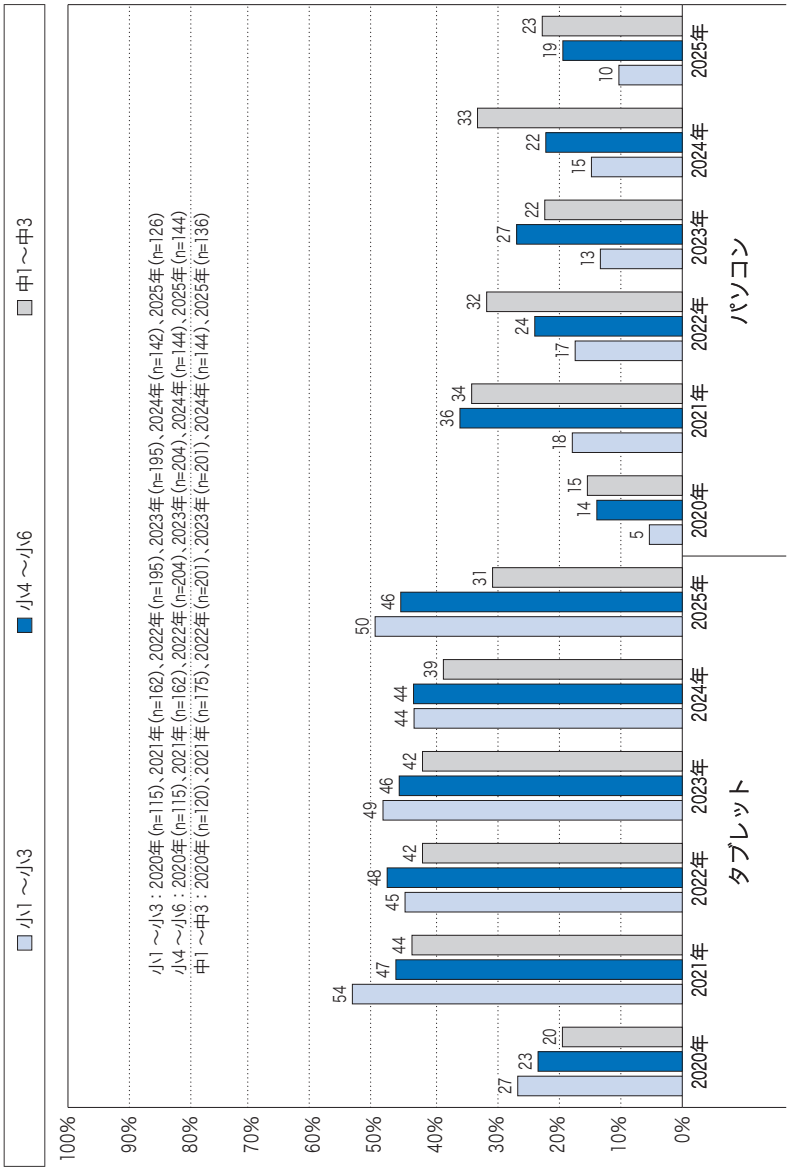
●貸与、自宅のタブレット・パソコンともに「宿題での活用」が最も多く、それぞれ約7割と3割弱。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-39 家庭で所有するタブレット・パソコンの利用年次推移[学年別]（単一回答）

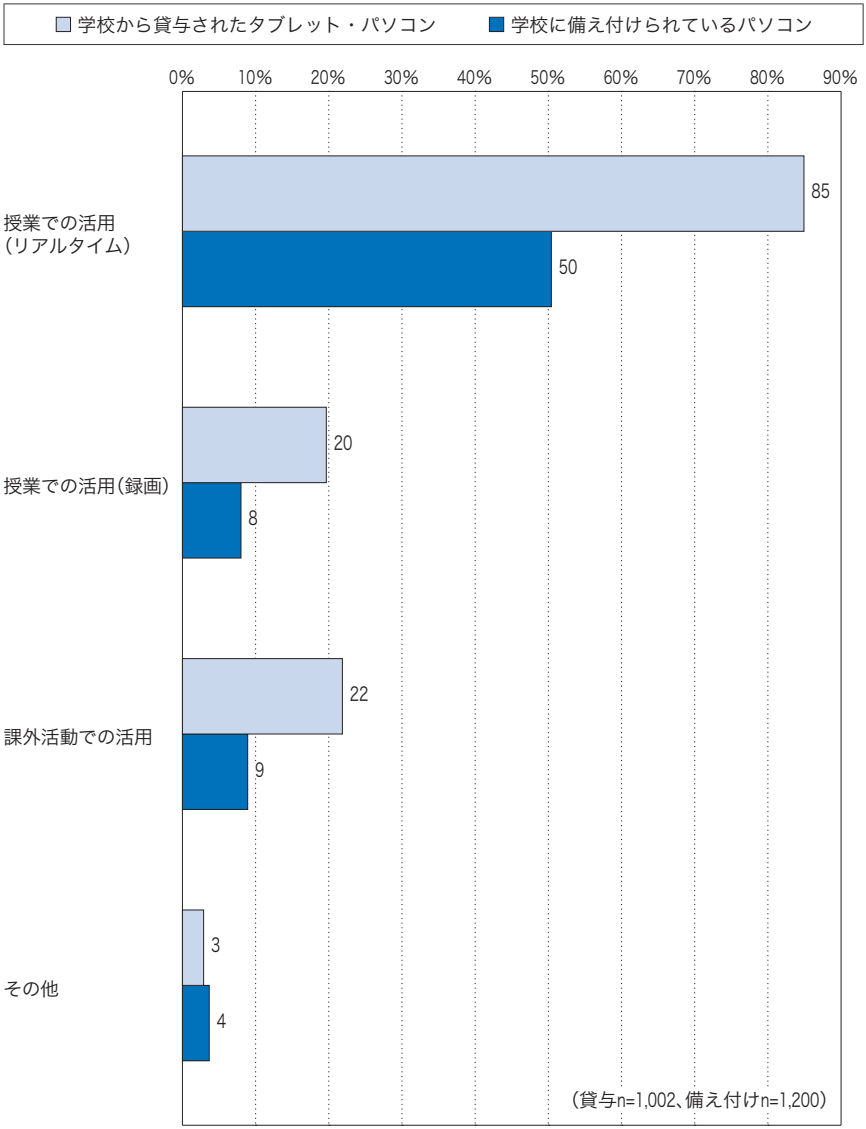
●家庭で所有するタブレット・パソコンの利用は2021年に大きく上昇。
●パソコンの利用は、2021年に比べ、やや減少傾向。



注：関東の小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-40 学校の中でのタブレット・パソコンの活用状況[学年別]（複数回答）

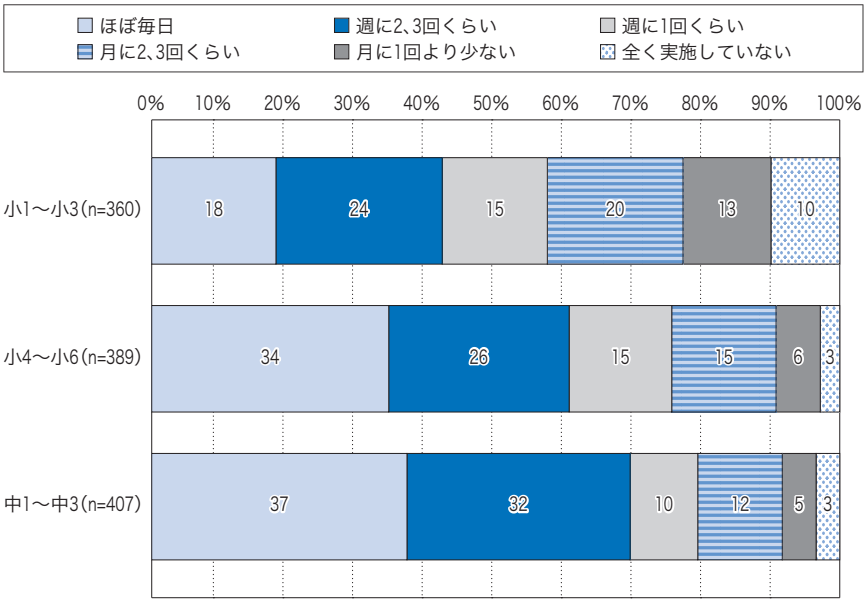
●リアルタイムの授業で活用されている割合が高い。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025（訪問留置）

資料6-41 学校の授業でのタブレット・パソコンの使用頻度[学年別]

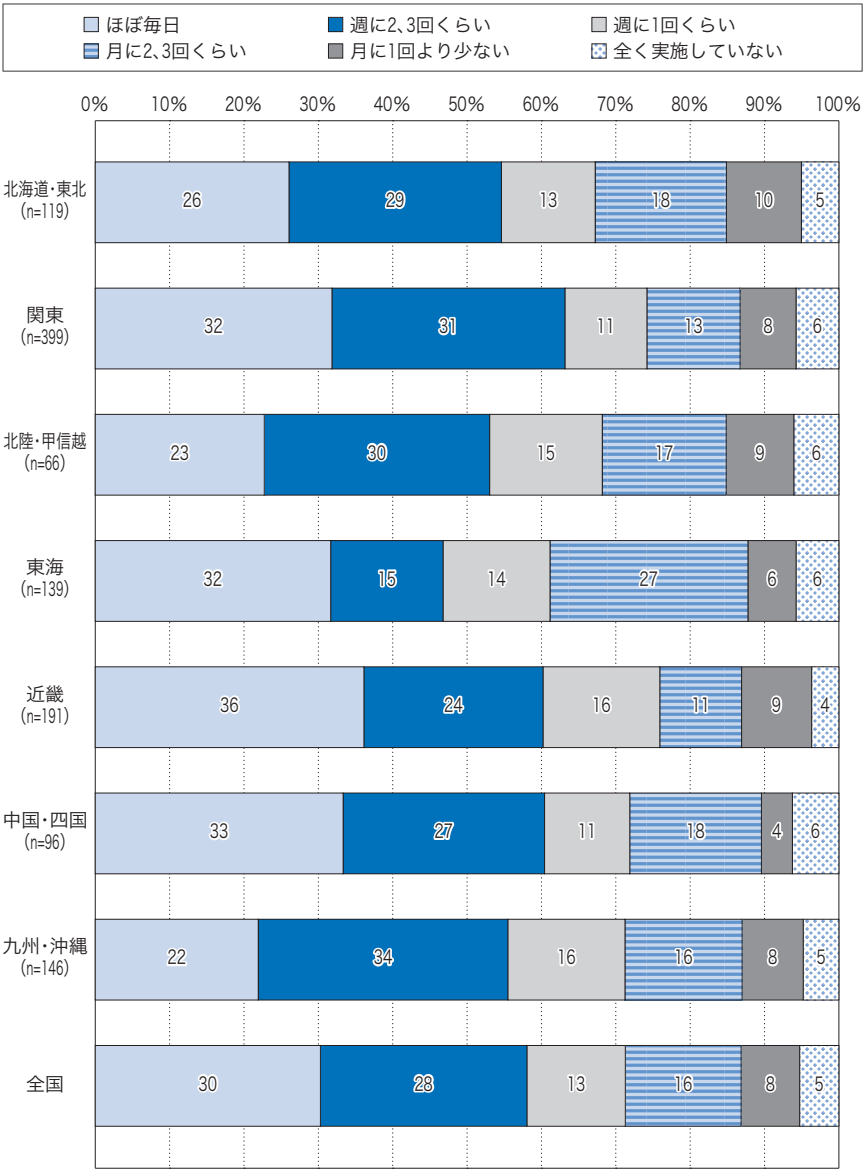
●小学生高学年と中学生は「ほぼ毎日」が約3～4割、週に1回以上実施は約8割。
●小学生低学年では、6割弱が週に1回以上実施。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-42 学校の授業でのタブレット・パソコンの使用頻度[地域別]

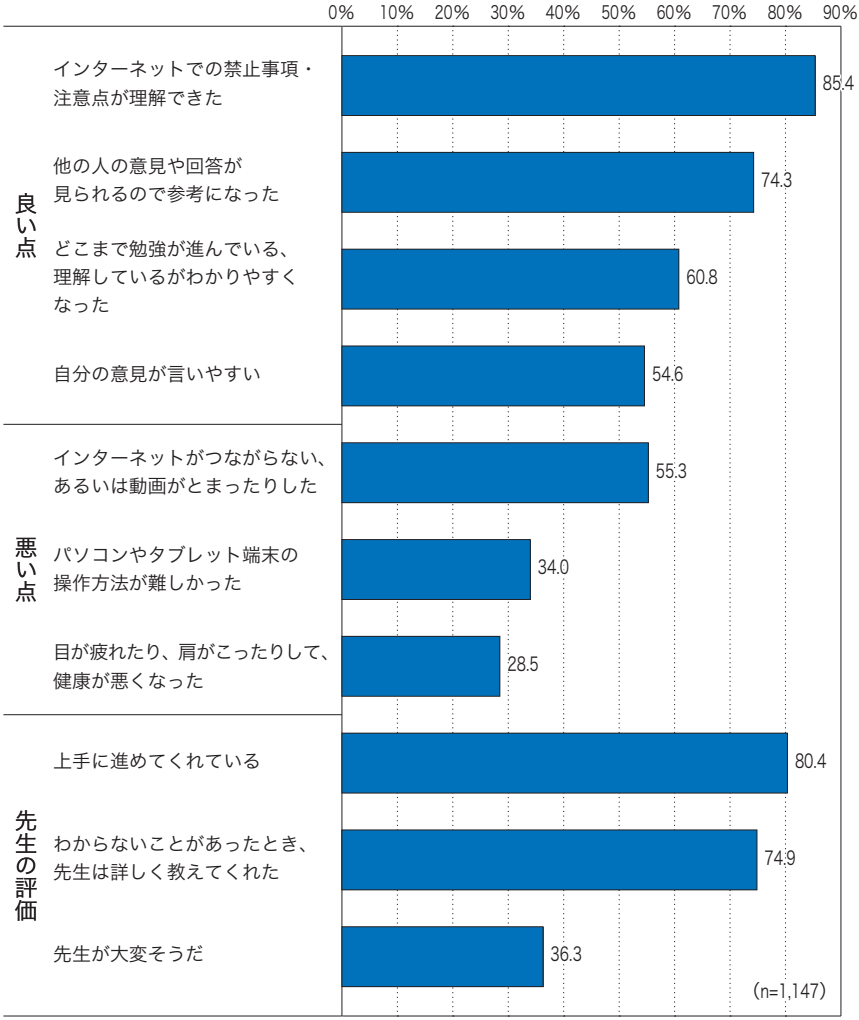
●週1回以上の使用が最も高いのは近畿地方で76%、次いで関東の74%。



注：小中学生の保護者が回答。
出典：子ども調査2025(訪問留置)

資料6-43 ICTを使った授業への評価(複数回答)

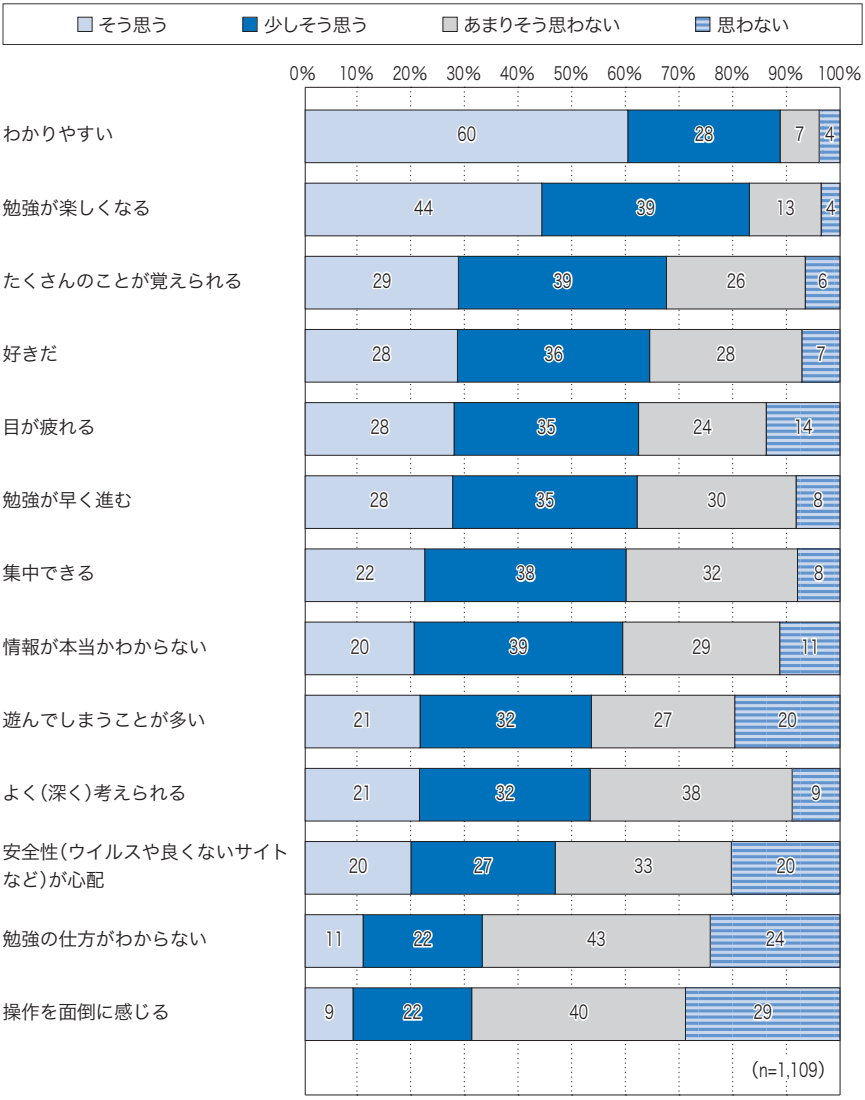
- 良い点トップ「インターネットでの禁止事項・注意点が理解できた」85.4%。
- 悪い点トップ「インターネットがつながらない、あるいは動画がとまったりした」55.3%。
- 先生については、「上手に進めてくれている」「わからないときに詳しく教えてくれた」が7割を超え、高評価。



注:小中学生自身が回答。実施したことがある人が回答。
出典:子ども調査2025(訪問留置)

資料6-44 ICT(パソコンやタブレット、スマートフォン)を使った勉強の感想(単一回答)

●「わかりやすい」約9割、「勉強が楽しくなる」8割強。
●「遊んでしまうことが多い」約5割、「安全性が心配」5割弱。



注:小中学生自身が回答。実施したことがある人が回答。
出典:子ども調査2025(訪問留置)